

2010年度

NEC森の人づくり講座（第20期・第21期）

実施報告書

第20期 8月28日（土）～31日（火）

第21期 11月 6日（土）～ 9日（火）

Aコース オークヴィレッジ / 森林たくみ塾

Bコース キープ・フォレスターズスクール

主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム

協賛：日本電気株式会社

プログラム運営：森林たくみ塾 / 財団法人キープ協会

目 次

はじめに	3
2010年度の応募者の傾向	3
第20期	
2010年・夏 Aコース報告書	7
2010年・夏 Bコース報告書	19
第21期	
2010年・秋 Aコース報告書	36
2010年・秋 Bコース報告書	47

はじめに

NEC森の人づくり講座は、1994年の講座開講以来、16年にわたり約700人以上もの受講生を送り出し、2010年度には第20期（夏）と第21期（秋）を実施しました。当初のインタープリター・インストラクター養成から始まった当講座ですが、10年目を境に、より具体的な問題解決に向けた人材育成へとねらいを深めてきました。

企業のCSR活動の最前線を担うNEC社員による「CSR講座」、先輩としての企業人の生の声を聞いて今後の進路に活かす「企業人との交流の場」など、これらの企画は参加者達に「森人」としての意識を持ちながら、社会に出てから企業人としてどのように行動していくべきかを考えるきっかけを与えてくれました。昨年度からはskype（スカイプ）によるインターネットを活用したテレビ中継で、両コースの参加者の交流を図る試みも行われています。

以下に、20・21期のA・B両コースの2泊3日にわたる講座の報告をいたします。

この講座を長年支えてくださっているNECに感謝の意を表するとともに、この講座の修了生たちの社会での活躍を期待しつつ、今後もより良い講座を提供して行きたいと思いません。

2010年度の応募者の傾向

・ 応募人数の変化

2006年（秋）	男子	18	女子	14	計	32	
2007年（夏）	男子	9	女子	21	計	30	年計 70
2007年（秋）	男子	15	女子	25	計	40	
2008年（夏）	男子	24	女子	42	計	66	年計 114
2008年（秋）	男子	21	女子	27	計	48	
2009年（夏）	男子	12	女子	27	計	39	年計 80
2009年（秋）	男子	16	女子	25	計	41	
2010年（夏）	男子	27	女子	43	計	70	年計 107
2010年（秋）	男子	17	女子	20	計	37	

2010年度大学別応募人数

学校名	20期 (夏)	21期 (秋)	計
千葉大学	6		6
日本大学		3	3
佛教大学		3	3
佛教大学	3		3
早稲田大学	3		3
大阪府立大学	2		2
北九州市立大学		2	2
筑波大学		2	2
帝京科学大学	2		2
東京農業大学	2		2
鳥取大学	2	2	4
奈良女子大学	2		2
日本女子大学	2		2
日本大学	2		2
立命館大学		2	2
愛知淑徳大学大学院	1		1
青山学院大学		1	1
愛媛大学		1	1
大阪大学		1	1
大阪教育大学	1		1
大阪電気通信大学	1		1
嘉悦大学	1		1
神奈川大学	1	1	2
鎌倉女子大学	1	1	2
環境学園専門学校	1	1	2
九州大学		1	1
京都学園大学	1		1
京都精華大学	1		1
群馬大学	1		1
慶應義塾大学大学院		1	1
神戸女学院	1		1
神戸大学		1	1

国際自然環境アウトドア専門学校	1		1
越谷保育専門学校		1	1
作新学院大学 大学院	1		1
桜の聖母短期大学	1		1
城西大学	1		1
昭和女子大学	1		1
駿河台大学	1		1
成蹊大学	1		1
聖心女子大学	1		1
西南学院大学	1		1
創価大学		1	1
高崎経済大学	1		1
筑波大学大学院	1		1
都留文科大学	1	1	2
東海大学		1	1
東京学芸大学大学院		1	1
東京家政大学		1	1
東京工業大学大学院	1		1
東京大学	1		1
東京農業大学		1	1
東京理科大学	1		1
東洋英和女学院		1	1
徳島大学大学院	1		1
島根県立大学	1		1
長岡技術科学	1		1
長崎大学	1		1
名古屋大学	1		1
名古屋経済大学	1		1
名古屋市立大学	1		1
南山大学	1		1
新潟医療福祉大学	1		1
日本大学大学院	1	1	2
弘前大学		1	1
文教大学	1	1	2
法政大学	1		1

北海道大学大学院	1		1
前橋工科大学	1		1
明治大学大学院	1	1	2
名城大学	1	1	2
山形大学	1		1
山口大学	1		1
山梨県立大学	1		1
立正大学	1		1
立正大学大学院	1		1
早稲田大学		1	1

・ 2010年度学部別応募人数

学部別応募人数	20期 (夏)	21期 (秋)	合計	割合
理工学系	22	13	35	24%
社会科学系	19	11	30	21%
農水産学系	10	20	30	21%
人文科学系	7	14	21	15%
教育学系	7	7	14	10%
生活科学系	5	7	12	8%
医歯薬看護学系	1	1	2	1%

講座のねらい

- 19期生：キープコースで学んだこと、そしてオークヴィレッジコースで学ぶことを通して、社会に出てからの自分の立ち位置をしっかりとさせる中で、今後自分でもできることを見つけること。
- 20期生：環境問題解決のための「具体的な行動のひとつ」としての「森の手入れを実践する」中で、自分の内面におきる気持ちの変化を大切にしながら、「実践によってはじめて課題解決へ進みはじめる」ことを「腑に落とす」こと。

■ 講座中に伝えたいこと

知識を蓄えたり考えたりすることだけでなく、課題の解決には具体的な行動に移すことが重要。地球温暖化問題において、森が持つ二酸化炭素固定能力への期待感を理解する。その能力を十分に発揮させるには森づくりを進めなければならない。一人より二人。素人でも束になってかかれば大きな成果を生み出す。そのために、「人の環＝人を束ねる仕掛け」ネットワークづくりが大切。行動するためには、道具の的確な使用法と安全な作業についての理解が不可欠。

■ そのために大切にしたいこと

蓄えた知識を「腑に落とす」まで実践する。
分かったつもりにならず、「五感」を使って物事を感じること。
実践を通して「手応え」を感じること。

■ プログラム進行表

=====
1日目 8月28日(土) 出合い～知識を入れる器づくり
=====

13:30 受付開始
15:00 開講式/オリエンテーション
15:30 実技「森づくり・導入編」 KYTで危険予知～まずは伐ってみよう
17:30 一日のふり返り「森人ブログの記入」
18:00 夕食
19:00 グループ討議「なぜ森の手入れが必要なのか」
20:00 小講義「手を掛けて森を育てる」
21:30 「森人大交流会」

=====
2日目 8月29日(日) 森と私のつながり～体験を五感で感じる
=====

07:00 起床
07:45 目覚めの体操
08:00 朝食
09:00 実技「森づくり・実践編」
12:00 昼食(お弁当)
13:00 実技「森づくり・実践編～続き」
17:30 一日のふり返り「森人ブログの記入」
18:00 夕食
19:00 TV会議によるKEEPコースとの交流
20:30 小講義「日本の森を知る」
21:30 トークセッション

=====
3日目 8月30日(月) 森と私のつながり ~手を動かして考える
=====

07:00 起床
07:45 目覚めの体操
08:00 朝食
09:00 実技 「森のモノづくり」
12:00 昼食
13:00 小講義「森人流、事を起こす・環を広げる」
13:40 見学 「オークヴィレッジ・ショールーム」
14:20 19期生送り出し

ここから、20期生のみ

14:30 実技 「森のモノづくり ~延長戦」
17:30 一日のふり返り「森人ブログの記入」
18:00 夕食
19:00 特別講座 「NECの環境活動」
20:30 森人大交流会

=====
4日目 8月31日(火) 次につなげるもの ~自分と対話する
=====

07:00 起床
07:30 目覚めの体操
08:00 朝食
09:00 スライドショー 「4日間をふり返って」
09:30 実技 「ソロ ~たった一人でふり返り」
11:00 TV会議によるKEEPコースとの交流
12:00 昼食
13:00 全体のふり返り
14:00 閉講式
14:40 プログラム終了

1日目 出会い、再開 ～環を広げる

■ 初顔合わせ

土日祝日の高速道路 1000 円の影響で、週末の高速道路は大渋滞。東京・大阪からの高速バスには軒並み 1 時間以上の遅れが生じました。交通を週末に集中させないで分散させるとか、公共交通機関の利用を促すとか、環境対策のために政府がやることは他にありそうなのに…。開始時間は多少押したものの、19 期生 1 名と 20 期生 10 名、合計 11 名の参加者が、宿泊先となるオークヒルズに集まりました。



■ 開校式

森林たくみ塾理事長・佃よりあいさつ。

「自然は大切だと思う人?」「自然は大好きだという人?」という問いかけに、全員が手を挙げました。一方で、「よく自然の中に入ってゆく人?」という問いかけには、残念ながら手を上げる人はいませんでした。「頭で考えていることと、実際に行動していることには、大きな隔たりがあります。知っているだけではダメで、行動に移して初めて意味があります。この講座を通して”知っている”ことを、ぜひ”している”ことへ移してください。」



■ 実技『森づくり・導入編』

KYT で危険予知～まずは伐って見よう

森づくりを行なうのは、手入れを始めて 4 年目となる雑木林です。入口付近は、先輩たちによって既に手入れが進んでいます。

手入れに先立って、先輩たちが手入れしてきた森を歩いてみることにしました。枯れ枝や根っこなどの障害物が多い急斜面を歩くだけでも大変で、周りを見る余裕もなさそうです。時々立ち止まって、周囲や頭の上、地面を観察しながら奥へ奥へと進んでゆきます。



「藪が茂っていて入っていけない」、そんなところまでくると、手入れした森と手入れしていない森の違いがはっきりと感じ取れます。

さっそくヘルメットと道具を手に、森の手入れの準備をします。ノコギリや剪定ばさみを使って森の手入れの作業を行なおうとすると、急斜面ゆえにいろんな危険が想定されます。その危険を予知しながら作業をすすめることで、万が一のトラブルにあっても危険を回避することができます。危険予知訓練を行なったあと、森の手入れを始めました。



今回、森の手入れにあたって出した指示は、「先輩たちの手入れした森と同じように、手入れしてください。」「ホオノキだけは、切らないでください。」他には特に指示を出しません。

指示のないままに始まった作業に、何をどうしたらよいか戸惑いながらも、ササを刈る人、木を切る人、枯れた枝を片付ける人、参加者それぞれに作業を進めてゆきます。

■ グループ討議『なぜ森の手入れが必要か』



予備知識も作業についての指示もないままに始めた森の手入れ。なぜ？どうやって？何を？どれくらい？実際に森の手入れを行った中で、いろんな疑問が生じたはず。一人ずつ疑問を書き出し、グループで整理しながら模造紙に落としこんでゆきます。まだお互いに打ち解けきれていない参加者どうし、意見をまとめてゆくのも難しそうです。時間はかかりましたが何とかまとまり、発表に辿りつきました。



■ 小講義『手を掛けて森を育てる』

森の手入れを進める上での基本情報の提供。

日本や世界の森林面積の推移とその宗教的背景、樹木の二酸化炭素固定能力と森の手入れの必要性、森林の保水能力と仮想水など、情報を縦横に織りまぜながら、森と私たちの暮らしの関わりを見た。

7代後の子孫のことを考えてものごとを決めるというネイティブアメリカンの考え方に、環境問題を考えるヒントがありました。



■ 森人大交流会

引き続き、多少のアルコールを交えて交流会を行いました。はじめはお互いが分からないで躊躇していた会話も、そのうちにあちこちから森林や環境問題について熱く語る声も聞こえて

きます。

交流会は 11 時で中締めとしたものの、その後も途切れることなく続いていました。普段は友だちとも真面目に話し合えない話題を深く話し合う機会を、学生たちは心行くまで楽しんでいるようでした。

2日目 森と私のつながり



■ 小講義「計画を持って、ことに当たる」

何も分からずに行った昨日の森の手入れで分かったことの一つは、計画を立てて森を手入れすることの必要性です。

そして、目の前にある森だけでなく、マクロな視点から森を捉えることの重要性を伝えて、今日の森づくりに備えます。

■ 実技『森づくり・実践編』



同じ森の手入れでも、訳も分からず作業を行った昨日とは違った視点で手入れを行ないます。ばらばらに作業をしていた昨日とは違い、何をするのか、どこからやるのかなどの段取りを、参加者どうして相談しながら進める様子も見られます。昨日感じた疑問・質問をよく噛みしめながら、時にはスタッフのアドバイスを聞きながら、笹を刈り、木を伐ってゆきます。

今年の残暑は、予想以上に手強いもの。熱中症にならないよう、十分に水分をとりながら森の手入れを進めてゆきます。午前中の時間で、自分たちの作業の前後での違いが分かるほどはっきりと成果が出てきました。

お昼は屋外でお弁当を食べました。あまりの暑さに、近くのせせらぎへ移動しました。誰が言うともなく裸足になり、体を冷やしながら自然を満喫しているようです。



お昼のお弁当の後は、活動場所を人工林へと移動しました。

午前中に手入れしてきた雑木林との違いを感じながら、人工林の課題も実感してゆきます。ここでは、これまで行なってきた森の手入れではなく、材料の利用を目的として、ヒノキの木を伐り出します。太さも高さも違う木に翻弄されながらも、スタッフの指示通りに安全に作業を進めてゆきます。伐り出した木は、明日のモノづくりで箸の材料となります。



■ TV 会議による B コース(キープ・フォレスターズスクール)との交流

B コースに参加している参加者と初対面の場です。こちらからは森の手入れで感じたことを一言にして伝えました。ここでの交流が、講座終了後も続くことを願います。



■ 小講座「日本の森を知る」

地球 46 億年の歴史における木の立ち位置を見てゆきます。そこには光合成に代表されるような植物の持つ大きな役割があります。生物界ではなくてはならない存在として植物はあります。

そして、森林面積率、森林の成熟度。そもそも人工林とは……。日本の森を知る基本知識を押さえておきます。

■ トークセッション

今宵も夜の交流が尽きないが、時間を決めてナイトハイクへ行きました。夜の林道は夜行性動物の活動の場です。五感をフルに活用して、暗闇を歩いてゆきます。如何に普段の生活が視覚情報のみに頼っているか、また五感が鈍くなっていることに気づいてくれたようです。

3日目 森と暮らしのつながり

■ 実技「森のモノづくり」



森は手入れで終わりではありません。切った木を活用してこそ、森に人の手とお金が回ります。木の活用を見出すべく、昨日自分たちで伐り出したヒノキの丸太を使って、マイ箸を作ります。丸太を必要な長さに切ります。ナタで割って、板を作ります。板を更に割って、箸の材料となる角材を作ります。



あとは、カンナで削るのみ。

箸を作ることより、削るとカンナくずが出てくることの方が楽しそうですね。つつい削ることに熱中して削りすぎてしまう人もいます。

使いやすい長さや太さの箸ができたでしょうか？マイ箸ブームの一步先に行くマイ箸作りを通じて、刃物を使ったモノづくりの楽しさと、森の資源を活かすことの大切さを感じ取れたでしょうか。



■ 見学『オークヴィレッジ』

森づくりからモノづくりまでを経験して、木製品を見る目も養われたらどうか？「100年育った木で、100年使える家具を」をスローガンに掲げるオークヴィレッジ・ショールームを見学しました。木目を活かした製品、適材適所に木を利用する、長く使うための工法などの説明を受けると、木製品を見る目が更に違ってきたようです。自分たちが体験したモノづくりとは大きく違うが、森の木を伐り、木でモノを作り、木のモノを使うことが、循環型

社会へつながることが理解できたでしょうか。



■ 19期生送り出し

今回は一人きりの19期生でしたが、2009秋の講座にBコースで学んだこともしっかりと伝えてくれました。今回、オークヴィレッジコースで違うアプローチから森に関わったことで、森を見る視野が広がったことと思います。

■ 小講義「森人流、事を起こす・環を広げる」

この講座を通して得たものは、知識として蓄えるだけでは意味がありません。行動に移したときに初めて、得たものが生きてきます。事を起こす上で押さえるべきこと、プロとアマチュアの力を結集させることなど、森人としての活動に必要なエッセンスを伝えます。

■ 小講義「森と人との付き合い方」

人は有史以来、木を素材として使ってきました。そこには森と共に生き、その恵を利用してきた「知恵」がたくさん詰まっています。日本人が森とどう付き合ってきたのかを見てゆく中で、自然との共生を考えました。



■ 特別講座『NECに見るCSR活動の最前線』

NEC・環境推進部より担当の方にお越し頂き、NECの環境への取り組み事例を説明していただきました。

”企業がなぜ環境問題に取り組むのか”その本質的な話題は、これから就職活動を行なう学生たちに有益な情報でした。



■ 森人大交流会

みんなで過ごす最後の夜です。NECの担当の方も交え、大交流会が始まりました。NEC担当の方に個人的な質問も飛び交う本音トークに、参加者から距離も近くなったようです。普段、友達とはなかなか話せない話題にも言及し、夜も遅くまで交流が続きました。この講座に応募した課題作文の内容を発表する場面もあり、選考段階とは違う視点で聞かせてもらいました。

4日目 次につなげるもの

■ スライドショー『4日間をふり返って』

あっという間の3泊4日のプログラムですが、内容は盛りだくさん。あんなことも、こんなこともやったねと、たくさん撮りためた写真を見ながらふり返ってみました。



■ 実技『ソロ～たった一人でふり返り』

この講座の締めくくりは、4日間をたった一人でふり返ること。森に関わることで考えさせられたことや、仲間との出会いで得たもの。駆け足でめぐった4日間を、やりっ放しで終わりとせず、次のステップへつなげることが重要です。そのために自分との対話を大切にしながらふり返ることで、本当に自分がやりたかったことや、これからの課題・目標を見つけていきます。

■ TV会議によるBコースとの交流

この4日間で得たものを一言ずつ、Bコースの参加者に伝えました。別々の場所で過ごしてきた4日間だが、同じ目標に向かっていることを噛みしめているようでした。

■ 全体のふり返り

長くて短い講座だったが、たくさんのことを吸収してくれたことだろう。ひとりずつからこの講座を通じて感じたことを述べてもらった。



■ 閉校式

「この講座の期間中に、“している”ことが、“している”ことになった人は？」の言葉に、みんなが手を挙げました。講座を受講して満足するだけでなく、実際に行動する人として活躍して欲しいと思います。



第 20 期:A コース参加者の感想

文章の一部を抜粋、加筆をしています。

■ 「この講座を通して獲得したものは、何ですか？」

佛教大学 (S・N)

私は、ずっと野外活動をしてきたので、環境教育・野外活動の道に進むのか、就職するのかをずっと悩んでいて、そのヒントが得られたらいいなと思い参加しました。この4日間を通して、ヒントが得られたかどうかは正直、わかりません。ただ、生き活きと活動するスタッフの姿を見て、これを仕事にする魅力を再発見しました。それだけではなく、10人の同期、18期、19期の2人と過ごす中で、色々な考えに触れることができました。

普通の大学生活では、しっかりとした考えを持ち、ちょっとでもアクションを起こしている人はかなり少なく感じます。けれど、こういう講習会では、しっかりとした考えを持ち、いろんな活動をしている人に多く出会えると思います。今回もそう思いました。非日常であったことを胸に、日常生活でも少しずつアクションを起こそうとする気持ちを得ることができました。

日本女子大学 (I・T)

森林を考える上でもっとも重要なことは、人とのつながりだと思った。一人では考えも狭く活動のパワーも小さい。今回、この講座に参加して多くの人とコミュニケーションを取ることで自分自身の視野を広げることができた。そして、これからこの経験を人に伝えることが使命だと感じた。環境意識を高めた人一人ひとりが更に多くの人を巻き込んで「自分は自然の中に生きている一人である」という自覚を当たり前のように持つ社会が求められていると感じた。また、自分の関心のあることや将来役に立ちそうだと感じるものの中だけで経験をつむことに満足せず、少しでも気になったことには積極的に行動に移し、そこで「自分はどのように感じるのか」という姿勢を大切にしたいと思った。

都留文化大学 (A・I)

森づくりをどう進めていきたい、森に関心をもつ人達の話を知りたいと思って参加したこの講座。学んだのは、自分に足りないものが多いという事実。森に育つ木々のこと、森を利用する人々のこと、森に関わる人の声、これから関わりたいと思っている人の声、そして自分自身の経験知。自分が知っていることと知らないことや、やってみないと分からない。まずは行動し、経験を積み、自分自身の強固とした、でもしなやかな考えを積み重ねてゆきたい。しなやかというのは、人の声に耳を傾け、森の小さなところにまで耳を澄ますということ。自分の考えを築き上げていったとしても、初心忘れるべからず。学ぶ姿勢を大切にしていきたい。

文教大学 (A・S)

この講座を通して、人とのつながりや森やモノの大切さ、五感を研ぎ澄ます大切さを学びました。実際に森に入り木を切ったりすることで、森の状態やどのような森が良い状態なのかということを感じられました。そういうことは、実際にその場に入って体験しなければ分からないと思いました。本で読んだり、悩んだりして立ち止まらずに、歩み、考えながらも、一步一步歩み続けることが本当に大切だと思いました。そして、人にとって森の重要性を知りました。そのことを通してどのように森を使っていくかということを考えていかなければいけなく、森づくりにとって、私たちがどのようにしていきたいかという視点を持ち、将来を通して考え、広い視野を持ちながら考えるという視点を得ました。

早稲田大学 (F・T)

当初の動機であった、様々な人との交流とモノづくりが実行できて嬉しいです。講義によって昔の人と森との付き合い方を知り、これから私たちがどう付き合っていくか考えさせられました。今後活用法から流通まで自分なりの提案をしてみたいと思いました。また自分で考えながら作業し、その後講義を聞くことで、森づくりとは何かを改めて考える良い機会をいただきました。そこで暮らす人にとっても他からそこを訪れる人にとっても利益を生む。つまり山菜が採れたり木を活用できたり森林浴などで癒されたりするそんな森が増えたら幸せだと思います。

最後に、便利な生活 = 豊かな暮らしだとは限らないが、世の中便利で暮らしやすくなるのが人間らしく生きられる豊かな生活を作っていきたいと思いました。日本だけでなく世界、特に途上国をそうしていく一端を担っていきたいと改めて強く思いました。

奈良女子大学 (T・K)

まずは人とのつながりです。ここに来ていなければ知り合えることもなく、ましてや語り合っただけで考えを共有することはできません。一つの同じ軸を持った仲間はとても貴重な存在だと感じています。そして視野が広がったことです。建築材として固執してみたいけれど、環境・森林からは生命や教育など様々なことにわたりつながらていることを実感しました。そして一人ではできなくとも人が集まることで大きな成果が生まれてくることに気づきました。素人だけではできなくても、一人の専門家がいるだけで可能性は大きく広がることを知りました。そして大きなことはできなくてもまずはやることの大切さを学びました。小さなことはこれからでも行動していきます。

明治大学大学院 (F・S)

私が本講座に応募したのは、森づくりやオークヴィレッジに興味があったから、学校という自分が受身になってしまう場所を離れて活動をしたかったからでした。実際に講座を受けて得られたものは、森づくりに限らず、人との出逢い、将来の自分について考えることなど、多岐にわたるものでした。

まず、森づくりについて。今までは管理計画が立てられている場での活動しかなかったので、一から自分たちだけで考えるのは初めての経験でした。そこで、管理計画の大切さ、その森について知ることの大切さを学びました。また作業をはじめとするプログラムを通して仲良くなった 20 期の仲間は、普段あまり話すことのないタイプだったので、この場での出会いをとっても嬉しく思いました。最後に、森での作業や NEC 鹿島さん、スタッフの皆さまや仲間の話を聞くことで、自分の将来についてもう一度考え直すいい機会になりました。元の生活に戻ってからも、森について、自分の将来について、常に考えるようにしていきたいと思います。

東京農業大学 (K・O)

僕自身のものの考え方や見方について視野を広げるということにつながったと思います。

参加しなければ出会うことのない、全国で様々な勉強をしている仲間や、人生経験が豊富で森林について心から熱い思いを持っているスタッフの皆さま、そして現役の NEC 社員であり、環境推進部の鹿島さんとの出会いは一生の思い出、人生の宝物になりました。

自分と向き合い、人と意見を交わす中で、森の中にある植物の一つ一つに命があり、太陽の光を求め必死に生きています。まだ僕にもできることはあると心から気づけたと思います。木・人と向きあう中で、自分は変われると思った以上に、自ら発信していくことの大切さを学んだと思います。

名城大学（T・I）

この森の人づくり講座を通して、20期生の同志たち、スタッフの方々との新しい人脈を得ることができたことが一番の収穫だと思います。「環境・森」というフレーズにいろんな考えを持つ人達と森に入り、理想の姿を考え、木を切っていく中で、今まで知識ばかりだった頭をリセットすることができ、実際に行動することの大切さを肌で感じることができました。そのことによって、この講座に参加する前の自分を客観的に見るができるようになり、悩んでいたことに対しての一つの答えを導き出すことができたことは、これから始まる就職活動であったり、自己分析をしてゆく中で、大きな糧となるのではないかと考えています。

また、この講座で学んだことを活かすためにも、環境をビジネスとして行っている企業に就職して、何らかの形で森と関わっていただけたいなと感じています。

立正大学大学院（S・F）

この4日間の活動で、「考えることの大切さ」「自然と人間の共存」「命の大切さ」「出会いによる人間の成長」などを学びました。これらは感じる事が大切です。しかし、それを実行しないのは、感じなかったと同じこと。実行してこそ学べる事が山ほどある。そんな当たり前のことを改めて気づかせてくれた4日間でした。自分の成長と周囲に良い影響が与えられるように、自分からアクションを起こしていこうと決意しました。

講座のねらい

標高1,400mに位置する清里(山梨県北杜市)。夏は避暑地としても賑わう清里ですが、今年の夏はさすがに暑い日が続きました。8月28日(土)~31日(火)に行われた「NEC森の人づくり講座2010・夏(Bコース/キープ・フォレストーズ・スクール)」では、まだ暑さの残るこの清里に、全国から暑い気持ちを持った学生14名が集まりました。

キープ・フォレストーズ・スクールにおける、講座の大きなテーマは「コミュニケーション」。環境問題解決の第一歩はコミュニケーションから、と考え、自然と人、人と人をつなぐ「インタープリテーション」の考え方や手法を学びながら、自分自身のコミュニケーションを見直していく、これを講座の柱としました。そして、参加する学生がこの講座を通じて「今、自分ができることは何か?」を考えるべく、一方的で受動的な内容ではなく、学生が主体的に取り組める実習やグループワークを中心に構成しました。もちろん豊かな自然が広がる清里が講座の舞台です。“頭”で考えるだけでなく、野外での体験や実習、そして学生同士の交流を通して、文字通り“身につく”講座にしたいとも考えていました。

今回の講座で設定したねらいは次の5つです。

- 1) 環境教育について学ぶ(企業やNPOにおける環境教育の取り組みについて知る)
- 2) インタープリテーションの考え方や手法について学ぶ。
- 3) 自分自身と環境教育との関わりについて考える(自分なりの言葉で説明できるようになる)
- 4) 全国の仲間とのネットワークを作る。
- 5) 自分自身のねらいを達成する。

さらに講座を進めていく上で大切にしたいこととして、

- 1) 体験から学ぶ
 - 2) お互いから学ぶ
 - 3) 楽しみながら学ぶ
- の3つを掲げました。

今回の講座で大きかったのは、「2009・秋」講座を修了した19期生が合流したことです。昨年秋にAコース(オークヴィレッジ・森林たくみ塾)を修了した19期生4名が、初対面でまだ緊張のある20期生を笑顔で迎えてくれました。20期生は、19期生の様子から、この講座における学生同士のネットワークが、同期のみならず連綿と続いていること、2つのコースをまたいでネットワークが広がっていること、何より学生自身でこの講座を作り上げていることを実感したはずです。

Bコース最大の課題は、学生一人ひとりが「インタープリター」となって、自分たちで環境教育プログラムを一から作り上げ、お互いに発表しあうこと。すでに紹介されているプログラムをアレンジするのではなく、全くのゼロからのスタート。材料は目の前に広がる清里の自然。1枚の葉っぱ、寝転がって見上げる空、目を閉じて聞こえてくる音。自分や仲間の感性と向き合い、そこに一つのメッセージを込める。一昼夜かけて作り上げたプログラムは、どのグループも面白くまた独創的なものでした。しかし、この実習の本当の目的は、発表に至るまでのグループ内のプロセス。一人ではなくグループ全員で合意を取りながら作業を進めていくことこそ、実は大きな課題でした。この実習を通して、「環境教育は一人ではできない」ということを知ってほしかったのです。

キープ・フォレストーズ・スクールでは、「インタープリテーション」が、特別な人が行う特別な行為ではないと考えています。自然の中で、生活の中で、発見や感動を他者と共感すること、まずはそれが「インタープリテーション」の第一歩。そんな「インタープリター」という存在が増えていくことで、人々のコミュニケーションが充実していくのではないかと考えています。今回の講座を修了した学生一人ひとりが、それぞれの場所で、「インタープリター」という役割を担って、コミュニケーションの輪を広げていくことを願ってやみません。

スケジュール

1日目 / 8月28日(土) テーマ：出会う

- 15:30 開講式
- 16:00 講座のウォーミングアップ(アイスブレイキング)
- 16:45 休憩、チェックイン
- 17:00 オリエンテーション
- 17:30 参加者自己紹介
- 18:00 夕食
- 19:15 講義：環境教育概論(関根)
- 20:15 1日を整理する時間
- 20:45 終了
自由交流会

2日目 / 8月29日(日) テーマ：つなぐ

- 07:00 環境教育プログラムの体験(ガイドウォーク)
- 08:00 朝食
- 09:00 八ヶ岳自然ふれあいセンター&やまねミュージアム見学
- 10:15 休憩
- 10:30 環境教育プログラムの体験(参加者主体型)
- 12:00 昼食
- 13:15 実習：コミュニケーションを考える
- 14:00 講義：インタープリテーション概論
- 14:45 休憩
- 15:00 実習：環境教育プログラムの実施&相互評価/オリエンテーション
- 15:30 実習：環境教育プログラムの実施&相互評価/準備
- 17:15 休憩
- 17:30 Aコースとのインターネット交流 準備
- 18:00 夕食
- 19:15 Aコースとのインターネット交流
- 19:45 1日を整理する時間
- 20:00 終了
自由交流会

3日目 / 8月30日(月) テーマ：気づく

- 07:00 実習：環境教育プログラムの実施&相互評価/準備(任意)
- 08:00 朝食、19期生チェックアウト
- 09:15 実習：環境教育プログラムの実施&相互評価/実施と相互評価
- 11:15 休憩
- 11:30 実習：環境教育プログラムの実施&相互評価/ふりかえり
- 12:15 講義：インタープリテーション概論
- 12:45 昼食
- 13:30 19期生クロージング
- 14:00 19期生お見送り

～以降、20期生のみ～

15:45 オリエンテーション
16:00 講義：安全管理
16:45 休憩
17:00 NECのCSRについて（NEC CSR推進部・社会貢献室 山辺清和さん）
18:00 夕食
19:15 環境教育プログラムの体験 ナイトハイク
20:15 1日を整理する時間
20:45 終了
自由交流会

4日目 / 8月31日（火） テーマ：ふりかえる

08:00 朝食、チェックアウト
09:15 補いの講義、質疑応答
09:45 休憩
10:00 講座のふりかえり
10:45 Aコースとのインターネット交流 準備
11:00 Aコースとのインターネット交流
12:00 昼食
13:00 20期生クロージング
14:00 終了、解散



1日目：出会う

開講式

8月最後の週末ということもあり、清里までの道路が渋滞した。結局、予定していた開始時間より1時間遅れてのスタート。それでも無事に今回の受講生14名(19期生4名、20期生10名)が、会場のフォレストーズキャンプ場に顔を揃えた。いよいよ4日間の講座の幕が開いた。



講座のウォーミングアップ(アイスブレイキング)

まずは野外に出て、ボールなどを使ったゲームで緊張をほぐしていく。最初は緊張した面持ちだった受講生も、すぐに打ち解けあうことができた。北は山形から南は長崎まで。全国各地から集まった14名の学生の、溢れる期待を感じる。



参加者自己紹介

全員で集まり、講座の目的や4日間のスケジュールなどを説明した後、席を囲んで改めて自己紹介。講座に来た動機や理由はそれぞれ異なるが、環境教育を学びたいという意欲は皆同じ。お互いのことを知ると同時に、自分がなぜこの講座を受けているのか考える時間にもなった。



講義：環境教育概論

最初の講義では、まず環境教育についての考え方を整理した。環境教育とは何のためにあるのか？環境問題はなぜ起こるのか？自分なりの言葉で環境教育を説明するには？投げかけられた講師からの問いを、この4日間で考えていく。



2日目：つなく



環境教育プログラムの体験 ガイドウォーク

2日目の朝。朝食前に周辺の自然歩道を散策する。森を抜け、突然広がる展望に歓声上がる。目の前には広大な牧草地。いつまでも眺めていたい風景を前に、今自分が清里の自然の中にいることを実感した。



八ヶ岳自然ふれあいセンター&やまねミュージアム見学

午前中、まずはキープ協会にある環境教育の展示施設を見学。キープ協会環境教育事業部が運営する「八ヶ岳自然ふれあいセンター」と「やまねミュージアム」を訪れた。施設展示も一つのインタープリテーションの形。今日はこれから、インタープリテーションについて、体験や実習を通じて学んでいく。



環境教育プログラムの体験

キープ協会スタッフによる環境教育プログラムを体験。小グループで森の中から一本の木を選び、その木を見て、それぞれが感じたことをメモに書き留める。次に、グループ全員のメモを組み合わせ、一つの詩に仕立て上げる。詩の創作という課題に取り組みながら、グループ内でのコミュニケーションを深めることができた。



実習：コミュニケーションを考える

話し手が一方的に話す場合と、話し手と聞き手とでやり取りできる場合で、意思疎通にどのような違いがあるか、ワークを通じて考えた。一方的なコミュニケーションでは不十分であることを知ることができた。



講義：インタープリテーション概論

この講義では、先のワークから、より良いコミュニケーションとは何かを考えた。そして改めて、インタープリテーションの意味や考え方を整理。いよいよこれから、学生一人ひとりが、自然と人をつなぐ役割・インタープリターとして、環境教育プログラムを作り上げる。



実習：環境教育プログラムの実施&相互評価 準備

自らが環境教育プログラムを作成・実施することで、インタープリテーションについての理解を深めていく。すでに紹介されているプログラムを実演するのではなく、一からプログラムを組み立てるのが、今回の大きな課題。野外と室内を行き来しながら、グループでの話し合いが続く。



Aコースとのインターネット交流

講座中の大きなイベントの一つ。Aコース（オークヴィレッジ/森林たくみ塾）とのスカイプを使った通信。19期生は、森林たくみ塾のスタッフとカメラ越しに久しぶりの対面。別々の場所にいながら、同じ時間を共有している仲間との出会いは、お互いに刺激をもらうことができたはず。

3日目：気づく

実習：環境教育プログラムの実施&相互評価

いよいよプログラムの実施。緊張はあるものの、それぞれが一生懸命にインタープリターとして、プログラムを行っていた。自らがインタープリテーションをする立場になって初めて、インタープリテーションの楽しさや面白さ、そして同時にその難しさを知ることができたようだ。



講義：インタープリテーション概論

プログラム実施後、他のグループからのフィードバックを参考に、グループごとに良かった点や改善点を話し合った。インタープリターに必要な視点は何か、自らの体験を通じて、整理することができた。

19期生クロージング

20期生より1日先に、19期生4名は講座最後の時間を迎えた。20期生に向けて、一人ひとりからメッセージを送る。この場で仲間と出会えた喜びと感謝が込められていた。



講義：安全対策

自然体験では欠かすことができない、安全についての講義。自然に潜む様々な危険因子について考えながら、危険には「目に見える危険」と「目に見えない危険」があり、「目に見えない危険」への対策は難しいものであることを知る。自然体験には危険がつきまとう反面、自然の中で行われる環境教育が、安全教育の側面も併せ持つことも学んだ。



講義：NECのCSRについて

NEC CSR推進部・社会貢献室の山辺清和さんから、企業における社会貢献の取り組みについてお話いただく。今回、企業の取り組みに関心を持ち、講座に応募した学生も多く、学生からは何度も質問が飛んだ。将来の進路を考える上でも、企業の方と直接お話できる貴重な時間になった。

環境教育プログラムの体験：ナイトハイク

わずかなライトの光を頼りに、真っ暗な森の中を歩く。誰とも言葉を交わさずにいると、ふとこれまでの体験をふりかえっている自分に気づく。やがて、森を抜けて草原の上へ。見上げれば満天の星空。清里の自然が与えてくれたプレゼントのように思えた。

4日目：ふりかえる



講座のふりかえり

これまで講義や実習を通して学んできたことを整理する時間。まずは、一人になって、4日間の出来事をふりかえりながら、今後の自分の活動に活かせそうなことは何か、それぞれの言葉で書きとめた。

Aコースとのインターネット交流

2回目のスカイプでの通信。お互いに最終日を迎え、それぞれが学んだことを発表しあった。次回は自分が画面の向こうから、清里に呼びかけているかもしれないと思うと、不思議な気持ちがある。



20期生クロージング

最後に、一人ひとりが今後に向けてのそれぞれの目標を宣言して、4日間に及ぶ講座を終えた。次の再会を楽しみに、全員が笑顔で清里を後にした。



第20期:Bコース参加者の感想

長崎大学(N・S)

私は、普段自然と接する機会のない人達に自然について伝えられるようになりたいと思い、この講座に参加しました。私がこの講座を通して学んだのは、伝える「相手」と「伝えたいこと」があって初めて伝えることができるという、当たり前だけれどとても大切なことでした。

このことを特に学んだのは、環境教育のプログラムを自分たちで考え、実践した時です。プログラムのねらいと、対象者がどんな人達なのか、何に興味を持っているのかを考えてプログラムを組み立てていくのにはとても苦労しました。しかし、外に出て草の上に寝転んでぼーっとしたり、木の幹や葉っぱに触れたりして、積極的に自然の声に耳を傾けることで自分が自然を好きであることを改めて確認し、この自然のよさを伝えたいと強く思いました。仲間と意見を出し合って、限られた時間の中でプログラムをつくっていくのもいい経験になりました。いざプログラムを実施すると、内容を詰め込みすぎたり、参加者の様子を見て臨機応変な対応が出来なかったりといった反省点が見つかりました。また、それぞれ違うやり方で自然のメッセージを伝える各グループのプログラムを体験したことで、自分の視野も広がりました。「アウトプットこそ、最大のインプット」、まずはやってみることで自然や伝える相手について見えてくるものがたくさんありました。実習を振り返った後、反省を生かしてこのプログラムをよりよいものにしてまたやりたい、フィールドや対象者をかえているんなプログラムを実践したいと思いました。

私はこの講座での体験を通して、自然と人と関わっていききたいという自分の思いを再確認しました。この講座で出会った人達の中から、環境の分野で働く人がたくさん出てくると思います。そういう人が活躍するための手助けをしたり、たくさんの人に自然を身近なものだと感じてもらうきっかけをつくったりするような活動をしていきたいです。

「私なりの環境教育をめざして」

昭和女子大学(A・N)

NEC 森の人づくり講座を受講して3日ほど経ちました。清里の涼しさとは対称的に猛暑の中、受講して学んだことを振り返っています。多様な価値観を持つ仲間と4日間森の中で過ごして、自然と向き合うこと、人間と向き合うことの大切さを学びました。そしてこれこそが環境教育の第一歩になると思います。

今回の講座で、私はたくさんの初体験に出会いました。朝露にぬれた葉っぱが皮膚にあたったときに感じる鈍さや草の上に寝た時に感じる地球との一体感、夜の森の静けさと空いっぱい広がる星の美しさ、どれも生まれて初めて体験した貴重な思い出です。これらの体験を通し、自然に自然と向き合うことがいかに大切かを伝えていきたいとおもいます。

そのために、現在通っている大学が主催のネイチャーゲームサークルに入り、今回の講座で得たことを伝えて周囲に発信していこうと考えております。少しでも自然と向き合うきっかけをつくり、より多くの方が自然っていいなあ、と思ってもらうために頑張ります。

また、インタープリテーションの実習を通してグループで意見をまとめることの難しさとしら楽しさを実感しました。人の考えにじっくり耳を傾け、自分事として一緒に考えて、さらに自分のアイデアを盛り込んでいく作業は人と向き合う絶好の機会だと思います。この機会をなるべく多くサークル活動に盛り込むことで対等な人間関係を築くことの大切さを伝えられればとおもいます。

今日、環境問題が大きな話題となっているのはこの二つの重要性が軽視されているからだだと思います。昔の人々は自然がもたらす恩恵に感謝し、つつましく生きていました。対等ではなくても、今よりは人と人の間にコミュニケーションがありました。この二つを見直すことで、環境問題解決の糸口が見つかるのではないかと思います。

今回の講座で様々な考えや価値観を持った人と接し、自分の価値観やポジションがどのようなかが見えてきました。と同時に、自分の考えの未熟さ、視野の狭さが浮き彫りになり、それを解消するためにもっと学びたい、色々なことを経験して吸収したいという思いが強くなりました。この強い思いとともに、今後私なりに環境教育活動に携わっていきたいと思います。

国際自然環境アウトドア専門学校（H・I）

森の人づくり講座 B コースに参加して、私が一番強く学んだことは「自然を楽しむことの大切さ」。自然に親しんでもらって、そこから楽しさや感動を体感してもらい、最終的には保全にも繋がる。自分のなかでもやもやしていた保全活動の中での環境教育の位置付けが、ようやく見えた気がした。

その中で私の目標は、最終段階である「自然の保護に関心を持って、行動してもらう」こと。とくに、子供ではなく大人相手の「鳥獣被害」に関する環境教育が出来れば、と思っている。時には生きていく上で重要な農作物の被害や、命にかかわる人身被害もある深刻な問題だけに、どう取り扱えばいいのか、対象に分かりやすく伝えるにはどうすればいいのかなど、講座を受けても分からないことだらけで、既に途方に暮れ始めている。でも、目的がなんであれ、根本は「自然は楽しい！大切！」というところだと思う。そこを上手く伝えるための手法は、講座でたっぷりレクチャーしてもらえた。今までは人前で話すことに抵抗があったけど、今なら自信を持って話すことが出来ると思う。もし話すことが上手いかななくても、「言葉がなくても伝えられるのがインタープリター」らしいので、いかにしてダイレクトに、時には様々な意味を含めながら自然を伝えていくのかは、自分の

腕次第というところだろう。

どうやって伝えよう？どこを工夫しよう？前は億劫だったその行程が、今ではとても楽しく感じる事が出来る。それは、私の中でかなり大きな心の変化だと思う。講座中に決心して、12月にアメリカであるインタープリテーション研修に行くことにしたのも、自分でも驚く決断だった。森の人づくり講座がそれだけ充実していて、環境教育が自分の中で更に発展させたい分野に昇格したからだと思う。アメリカ研修を控えている今、目標は、「自分の知らない土地で、言葉の通じない中でも自然とプラスアルファ（自分の想い）の部分をしっかり伝える」こと。そのためには、まだまだ勉強しなきゃいけないことも沢山あるし、心が折れるような出来ごともあると思う。でも、心が折れそうな時に相談出来る仲間とたくさん出会えたことが、今回の講座を受けた私の最大の強みだと思って、思うままに進んでいきたい。

千葉大学（K・N）

環境教育活動。以前の私は、インタープリテーションプログラムを対象者に対して実施する＝環境教育活動と考えていました。今回 NEC 森の人づくり講座に参加したことで、インタープリテーションの本質を知ることができました。

私は、小学校時代に自分の人生を左右する体験をしました。小学校の裏が山だったので、その山の半分が砂を取るためにある日突然切り崩されてしまったのです。その日から、漠然とですが、自分の手で自然を守りたいと思うようになりました。大学に入り、自分の思いを何か具体的な行動に移したい...そんな思いで参加したのが 2009 年のオークビレッジの秋講座でした。自然を守りたい、でもそれは自分のエゴではないのか。そんな疑問を抱えていた私にとって、オークビレッジでの講義や、全国から集まった仲間との語らいはとても有意義なものでした。私を変えた 4 日間といっても過言ではないと思います。

仲間と再会を誓って別れてから約 1 年。今度はキープ自然学校で、仲間と再会することができました。そして、また新たな 20 期生との出会い。同じ「環境」というキーワードによって集まった人たち。それぞれの専門は違いますが、すぐに意気投合することができました。これから新たなつながりができていくと思うと、とてもワクワクします。夢をお互いに語り、過ごすことのできた 3 日間はあっという間でした。

私が一番印象に残ったのは、環境教育自体が目的となるのではなく、環境問題を解決するための手段でなくてはならないということでした。大学で行っているゴミの分別活動や省エネルギーの呼びかけ。目的を頭に置かずに活動することがこれまで多かったと自分自身思います。これからは目的意識を持ちながら、活動を行っていきたいと思います。

「自然を守るにはどうしたらいいのか」そのことを考えていた自分ですが、「人が生きてい

くために自然を壊す時、それをどうしたら最小限に抑えられるのか」それを考えていければと今は考えています。そのためには、たくさんの関係者とコミュニケーションが必要になると思います。環境教育活動と言えるのかはわかりませんが、環境教育活動を教わった際に大切だと教えていただいたコミュニケーションを心がけ、夢に向かって頑張っていこうと思います。

成蹊大学（H・H）

私がこのプログラムでとりわけ学びが深まったのは、本プログラムの大きなねらいの一つにある、環境教育です。今までに教育の面では、高校生活の中で、地域の高校生会に所属していました。大自然の中で行うキャンプ活動や四季を通して稲を収穫するという四季の体験学習といった“自然体験学習”や、昔遊びや正月遊びなど、古き良き伝統を子どもたちに伝える“生涯体験学習”を中心に地域の小中学生に対して行ってきました。しかし、環境という枠組みで子どもたちに対し何か“直接”教えた経験は、私はありませんでした。世界で深刻な課題である、環境問題を分かりやすく教えたいと思っていても、どのような手法があるのか高校生の私には分かりませんでした。

このような経験から私は、本プログラムを受講する事で、環境教育プログラムについて深く学び、子どもたちに対して環境問題というメッセージをどのような手法で伝えられる事が出来るのかを知りたい！という目標の元に四日間を過ごしたのです。

事実、四日間を過ごし終えた今、たくさんの環境に対する知識と環境教育の実践経験が身についたと感じています。

環境問題を語る上で、最も恐るべきことは“無関心”だという事をプログラム中に教わりました。無関心を抑制するのは感受性であり、その感受性を育み促す役割がインタープリターという仕事。誰もが自分の周りだけに目がいき、他人のこと、困っている人のこと、苦しんでいる人のことを考える余裕が無くなりつつある今に必要な仕事だと実感しました。

将来は、本プログラムで得た知識・経験を地元である茨城で、子どもたちにフィードバックしたいと考えています。NPO 法人やボランティア活動に関わりながら自然と人間の橋渡し役になるつもりです。環境教育をキーワードに私達若者が地域の活性化、地域交流に使命感を持って貢献したいと思います。

名古屋大学大学院（K・S）

今回、私はキープ協会の主催するインタープリテーション実習に参加する機会を得た。2泊3日という短い期間だったが、高山のたくみ塾とは異なった森との関わりについて学

び、感じるとても充実した3日間だった。特に私の記憶に残ったのは、やはり自分たちで企画したプログラムである。限られた人、資源、技術の中でいかにしてプログラムを作っていくのか？ということを実際に行い、また、他の班が考えたプログラムに参加することで、楽しみながら、さらにどの点に気が付いたらより面白くなるのか？など批評する貴重な機会であったと思う。

私は現在、子供たちと山や川に出かけ、その中で子供たちが自然の中で「自分のやりたいことを自分で表現できるようになれるように」というコンセプトのキャンプにキャンプカウンセラーとして参加している。今回の経験がこのキャンプにどのように生かせるか、ということについて考えていきたいと思う。私の参加するキャンプは子供たちに何かをさせるようなことはしない。子供の気持ちを聞いてあげることが最も重要視される。そんな中、今回のようなプログラムを企画してそれに子供達を「付き合わせる」ことはできない。だが、子供達がどのようなことに気づき、それを自分で表現するお手伝いをする事ができるのではないかと考えられる。では、子供たちの気付きに私はどのように関わることができるのだろうか？それは、子供達と同じ目線でまず見てみることに、そして気長に待つことだと思う。これまで待つということがあまり出来る方ではなかった。しかし、今回のプログラムを考える際、積極的に話す方でないしみこやナツツとコミュニケーションをするために一番注意したことは“待つ”ことだった。完璧にできたとは思えない。だが、焦らせず、のんびりと待つこと。そして、言ってくれたことを大切にしようという姿勢を取ることより多くのアイデアを皆で出すことができたと思う。話しをたくさんして言葉数を増やさなくてもちゃんとコミュニケーションできるということを実際に体験できたことはとても大きな成果だったと思う。

ただ“待つ”だけでなく、どんな待ち方だといいいのか？をもう少し私は考えていきたいと思う。その中で、子供たちと心を通わせることが出来れば一方通行のプログラムではなく、双方向でともに作り上げていけるプログラムのようなものが自ずと見えてくるのではないのか？今の私にできることは決して派手ではないが、とても大切なことだと感じている。

日本女子大学（O・Y）

20期の仲間たちと共同生活を送る中でも、ただ星空を見上げて一人になる時間が私は好きだった。これから社会人になり、多くの人と出会い、刺激を受けながらまだまだ成長のびしろのある生活を送ることになるだろう。しかし、時に一人になって自分と向き合い、考え事をする時間や、ただ星空を見上げるだけの人と関わらない時間と空間も大事にしていきたいと考えた。それをいろいろな人と共存する社会において実現する方法はあるだろうか。最近よく耳にする屋上庭園や屋上緑化。どうせ緑を増やすならいっそのこと森にし

て、人目に付かない空間を作ることそれが可能になるのではないか。ただ日の光を浴びながらお昼を食べるのも良いが、木漏れ日を感じながら寝転んで自然を感じることができる、そんな空間が高層ビルで埋め尽くされた都会に出来たら、人もビルもエコ活動に貢献できるのではないか。もうすでに屋上を森にする取り組みをしている企業もあるかもしれないが、屋上で自然を感じながら一人の時間を過ごせる空間を作れたらと今回の講座が終わってふと考えていた。

また、2回目スカイプにて4日間で学んできたことでも述べたように、自然の中のゴミ拾いだけでなく、都会のゴミに違和感を持てるようになるために、ゴミを捨てさせない工夫を、ターゲットを絞って施す必要があると考えた。どのエリアに何のゴミが多く捨てられ、どんな層が捨てていくのかを分析し、それらにあった工夫を施せばもしかしたらゴミを減らすことができるかもしれないと考えた。しかし、この一人よがりな理想論を実現させるためには、まず賛同者と協力してくれる人が必要だと考えた。環境教育講座でも何度も言っていたように、環境活動はひとりではできない。参加者、主催者、サポートする人がいて初めて環境教育は成り立つ。そうした賛同者を見つけるため、これからの就職活動や就職先の企業、プライベートにおけるさまざまな人との出会いを大切にしたいと感じた。

星空は清里以外でも見たことはあるし、清里の星空が特別幻想的だったということはない。しかし、星空を見てあれほど思いを巡らせたこともなかった。星空に全身で向き合うことで今まで以上に地球環境について考えが深まったように思う。

駿河台大学 (R ・ T)

まず、このような機会を与えてくださったNECとkeep協会のみなさん、ありがとうございました。今回の講座に参加して自分の未熟さを自覚し、多くのことを学ぶことができました。

講座に参加する前は漠然としか考えていなかった、環境についての考え方が変わりました。たとえば、道路にゴミが落ちていたら拾うようになりまし、夜道を歩いているときに虫の声に耳を澄ます、など身近な自然に興味を持つようになりました。いきなり、世界の環境問題を考えるのではなく、小さなことから始めてみよう、と思っています。

コミュニケーションの難しさも学びました。講座では、相手の表情が見えないだけで、コミュニケーション力は格段に低下することがわかりました。現代は携帯による電話やメールでのコミュニケーションが増えていて、便利になっていますがこれらは逆にコミュニケーション力の低下を招くのではないかと、思いました。また、食堂にいたイギリス人のベンとコミュニケーションをとったのですが、彼の英語はネイティブでほとんどの言葉が理解できませんでした。しかし、ジェスチャーや、表情で伝えたいことは理解できました。

言葉はコミュニケーションをとるための数ある手段の中の一つであると実感し、大切なのは伝えようとする意志や、気持ちだと思いました。

そして、19期生、20期生のみんなに出会えてよかったです。ボランティアをしているひと、東南アジアが好きなひと、海藻を調べているひとなど、みんな個性あふれるひとばかりで刺激を受けました。私もいろんなことに興味を持ち、新しいことにチャレンジしていきたいです。このつながりは自分にとって大きな財産になりました。

関根さんは「価値観は変わるもの」と教えてくれましたが、今回の講座で私の価値観は変わったと思います。ここで学んだことを自ら実践するだけでなく、積極的に外に発信して、多くの人に環境問題について考えて欲しいと思います。

この4日間、本当に楽しくてあっという間でした。機会があったら、また清里に遊びに行きたいです。どうもありがとうございました。

山形大学（S・I）

私は、今回の講座で初めてインタープリテーションの考え方や手法について学びました。私にとって初めての経験が数多く、また様々な考え方を持つ同年代の学生と共に過ごしたことで自分自身を振り返る、また将来を考える上で良い刺激になったと思います。本講座のプログラムを通して、実際にインタープリテーションを行うことの難しさや楽しさを感じることができました。本講座で印象に残ったこと、考えさせられたことが数多くありますが、特に印象に残っている言葉から環境教育活動について考えていきたいと思います。

まずは初日の夜の講義で印象に残った言葉の「無関心」と「感受性」。自然環境や社会、相手や周囲の人々、果ては自分自身にまで無関心でいること、それが自分の世界を狭め、盲目にし、流されるように生きていくことにつながるとしたら本当に恐ろしいことだと気付きました。自分も他社も無関心でいないためにも4つのアンテナを意識し、感受力を身につけ、自らが働きかけることのできる人になりたいと思います。

そしてインタープリテーション概論の講義で、『コミュニケーション』に関する数々の言葉、「コミュニケーションとは理解しあうことであり、“共にいる”、“聞く”、“話す・書く”で理解を深めていく」「“言った”と“伝わった”は違う、同じ言葉でも受け取り手が変わると意味や解釈も異なる」「より良いコミュニケーションとは“受け止める”、“待つ”、“気持ちの良い”」など自分のコミュニケーションの仕方を考え直すきっかけになったと思います。

私は現在就職活動を終え、造園会社に内定を頂きました。しかし今回の講座を受講し、貴重な体験や個性的な人々に出会ったことで「本当にこのまま就職していいのか？」という疑問を抱きました。答えはまだ出ていません。しかし自分の意識や考え方、周囲の人々

への働きかけで環境教育にいか様にも関わっていけると思うので、まずは学生生活の中で可能な限り、地環境教育活動やセミナー等に参加していきたいと思っています。そしてその過程の中で自分のインタープリターという仕事の将来像を考えていきたいと思います。

筑波大学大学院（A・F）

今回の講座は、私が将来担っていききたい環境教育の形を考える上でとても有益な時間になりました。そしてとても解放されて楽しい時間でした。自然を感じる。伝えるということ。共有すること。そしてそれを更に他の人に広め伝えること。オークヴィレッジとはまた違って、みんなと共有することの多かったこの時間。一番に思うのはやはり、環境に対して持つ関心は多様でありながら、ただ環境教育というキーワードにおいて出会えた、頼もしい仲間達です。もっと共に居たかったし、共に話したかったですが、短い時間だからこそ貴重な濃い時間を過ごせた事に感謝です。人との絆が何より尊いものだな、ということに改めて実感しました。私にとってこの時間は、どれだけみんなを最高に楽しませ、私自身も最高に楽しむかが全てのようなものでした。だから一人ひとりが私の思いの中に欠かせない存在です。

また、自然のパワーに感動でした。私は、自然ほど誰もが関心を持ち、興味を深められるものはないのではないかなと思うのです。自然ほど何をも受け入れるものはありません。自分がどうであり、他人がどうであったとしても、必ず受け止めてくれます。それがたとえ危害を加えるものであってさえも。しかし人工物に囲まれて育つことの多い今の時代、自然の姿、力、限界を正しく知る人がどれだけいるのでしょうか。それを考える入り口ではありますが、私は今回の様々な体験を通して、実際にみんなで真剣に考え、向かい合えることができると実感できたことが良かったと思っています。

私は19期をオークヴィレッジで参加しましたが、一年近くぶりに会うにもかかわらず、同期の仲間と、昨日会っていた様なより深い繋がりを感じることができたのも大きな収穫です。私たちを見て、その絆が20期以降にも繋がっていったらこの上ない喜びです。私は国家公務員を目指しているので、森人で培った自然と人との繋がりを生かして、より公的な立場でこうした繋がりを作る場を作っていける人になりたいと思います。

大阪府立大学（K・H）

今回の講座で学んだ多くのことばの中に、双方向や多方向ということばがありました。自分から一方的に伝えるだけでなく、相手の言葉をしっかり受け止めることがインタープリターには大切だということでした。

この講座で出会った十数人の仲間たちは、『自然の中での環境教育』という共通の目的で

森の人づくり講座に参加していましたが、そのなかでひとりひとり学んでいる分野や、やりたいこと、考えていることはバラバラでした。そんなみんなの話はとても多彩で4日間の講座はとても短く感じました。それぞれ考えや想いに違いを持った仲間たちと作り上げたアクティビティはいままでと違って新鮮で、とても充実していました。

私はこの講座に参加する前は自分の伝える力を伸ばしていきたいと考えていました。環境教育、インタープリテーションを行うにあたって、伝える力というのは大事な要素であることは間違いのないと思います。そして、伝えると同時に相手の考えを受け止めて双方向のコミュニケーションを相手と取ることも大切だと思いました。そして私も、そのような双方向のコミュニケーションを取れるようにしていきたいです。

また、多くの人の様々な話を聞いて、相手のことをよく知り、相手との考えや想いの共通点や違いを見つけていくこと、考えは想いを共有していくことも大事にしていこうと思いました。

私は今大阪に住んでいて清里で体験したような自然を使った環境教育をすることは難しいと思いますが、コミュニケーション力を大切に大阪の仲間たちと活動していきたいです。

東京農業大学(H・S)

今回、19期生の私がキープの講座に参加した理由は、多くの学生との出会いが欲しいとの思いからでした。普段の大学生活では、決まった人達の中で生活しています。そのため、他大学で様々な活動をし、価値観の異なる学生と色々な話をしたいと考えていました。昨年オークのプログラムでお会いした、おぎやん・山ピー・佃さんからは、なぜこの活動に関わるようになったのかなどのお話をお聞きできたので、スタッフの方々との出会いも楽しみでした。

今回の講座で印象に残っているのは、コミュニケーションについてです。特に、「言った」と「伝わった」の違いについては、自分でも思い当たる点が多くあり、改めて考えさせられました。自分だけが伝えたと思っている一方通行のコミュニケーションでは、相手の受け止め方次第で何も伝わっていなかったり、意味を違えて解釈されたりしています。人に伝えるとき、コミュニケーションを取るとき姿勢の大切さを実感しました。

実際のプログラムの計画作成では、インタープリテーションにおいて何を伝えたいのか、どう伝えるのか、をまとめていくのが難しいと感じました。体験を通してテーマを理解してもらうためにできる工夫は、多くあると思います。グループ内での自由な発想がプログラム作成において大切だと感じました。また、実際に計画を作成することで、一つひとつのプログラムをより楽しもう、大切にしよう、との気持ちを参加者全員が持てたと思います。

私は、今回の活動を通して、環境問題への関わり方としては、自分が直接行動したいと

の気持ちが大いことに気づきました。環境問題の根本治療にはならないかもしれませんが、森林の問題であれば間伐活動に参加する等です。また、人に何かを伝えるには相応の知識が必要だと今回感じました。自分はどのような分野で活動したいのか、何をしたいのか、今後も考えていきたいと思っています。

今回講座に参加させて頂き、環境教育・インタープリテーションについて学び、環境に対して様々なアプローチ法があることを知ったことは、自分にとってとてもプラスになりました。また、多くの人と出会うという参加目的も達成することができました。スタッフの方々には、どのようにして今の仕事を選んでいるのか、相談にも乗っていただきありがとうございました。

今回の経験を大切に、自分がどんな活動をしていくのか考えていきたいと思います。

神奈川大学（H・A）

今まで「自然好きだー。」と思いながらも年を重ねるにつれて自然に出ようとしないう自分がいた。一步自然に踏み出せば、こんなに沢山の発見と感動があるにも関わらず。それはある意味での「無関心さ」だった。周りにいる友人を自然の中に連れだし自分の「自然」に対して抱くわくわく感を伝えることは大変だ。未だできていない。

私は、自然環境を守っていく上で、企業の資金面での重要性を感じ経営を専攻した。経営を専攻する同期の中には環境の大切さをなんとなく理解する人はいても、環境に興味関心をもつ人はごく少数なのが現状だ。私の大学には環境サークルがない、それくらいに周りに環境に関心をもつ人は少ないのだ。同じように私が企業に出ても環境に「無関心」な人は多いと思う。私は、企業に入り社会人になっても企業の中で環境活動をしていきたいと考えている。その時の環境教育の対象者は、もともと興味をもって環境教育を受けにくる人とはたぶん違う人種だろう。そんな人たちにピッタリの橋渡し、一步を踏み出すサポートのできる、そして、いつの間にか「非日常」が「当たり前」に、「無関心」が「わくわく」になっていたと言われるような環境教育ができるような人になりたい。

今回、私は「森の人づくり講座」でたくさんの人たちに出会った。皆、自然という大きなカテゴリーの中でも問題意識や興味関心が違うということに気づけたことが、今回一番の収穫だったように思う。自分は経営的に物事を見ているな、と気付かされた。

今回の講座のメインであった、アクティビティの企画・実施・振り返りは、とても実践的だった。たくさんアクティビティに触れ、「自然」と「ひと」との橋渡しにはたくさんの形があることを知った。講座を受ける前は自分からアクションを起こすことはとても大きな一步のように思えた。しかし、講座が終わってから振り返った一步はとても小さな一步になっていた。さあ、次の一步へ。

講座のねらい

- 20期生：キープコースで学んだこと、そしてオークヴィレッジコースで学ぶことを通して、社会に出てからの自分の立ち位置をしっかりとさせる中で、今後自分でもできることを見つけること。
- 21期生：環境問題解決のための「具体的な行動のひとつ」としての「森の手入れを実践する」中で、自分の内面におきる気持ちの変化を大切にしながら、「実践によってはじめて課題解決へ進みはじめる」ことを「腑に落とす」こと。

■ 講座中に伝えたいこと

知識を蓄えたり考えたりすることだけでなく、課題の解決には具体的な行動に移すことが重要。地球温暖化問題において、森が持つ二酸化炭素固定能力への期待感を理解する。その能力を十分に発揮させるには森づくりを進めなければならない。一人より二人。素人でも束になってかかれば大きな成果を生み出す。そのために、「人の環＝人を束ねる仕掛け」ネットワークづくりが大切。行動するためには、道具の的確な使用法と安全な作業についての理解が不可欠。

■ そのために大切にしたいこと

蓄えた知識を「腑に落とす」まで実践する。
分かったつもりにならず、「五感」を使って物事を感じること。
実践を通して「手応え」を感じること。

■ プログラム進行表

=====
1日目 11月6日(土) 出合い～知識を入れる器づくり
=====

13:30 受付開始
15:00 開講式/オリエンテーション/アイスブレイク
15:30 実技「森づくり・導入編」 KYTで危険予知～まずは伐ってみよう
17:00 一日のふり返り「森人ブログの記入」
18:00 夕食
19:00 グループ討議「なぜ森の手入れが必要なのか」
20:00 小講義「手を掛けて森を育てる」
21:30 「森人大交流会」

=====
2日目 11月7日(日) 森と私のつながり～体験を五感で感じる
=====

07:00 起床・広間の掃除
07:45 目覚めの体操
08:00 朝食
09:00 小講義「ミクロの視点、マクロの視点」
09:30 実技「森づくり・実践編」
12:00 昼食(お弁当)
13:00 実技「森づくり・実践編～後編」
17:30 一日のふり返り「森人ブログの記入」
18:00 夕食
19:00 TV会議によるKEEPコースとの交流
20:30 特別講座「NECの環境活動」
21:30 トークセッション

=====
3日目 11月8日(月) 森と私のつながり ~手を動かして考える
=====

07:00 起床・広間の掃除
07:45 目覚めの体操
08:00 朝食
09:00 小講義「森人流、事を起こす・環を広げる」
09:30 実技「森のモノづくり」
12:00 昼食
13:00 見学「オークヴィレッジのモノづくり」
14:30 20期生からのことば
14:40 20期生送り出し

ここから、21期生のみ

15:00 実技「森のモノづくり ~延長戦」
16:00 小講義「森と人との付き合い方」
17:30 一日のふり返り「森人ブログの記入」
18:00 夕食
19:00 小講義「日本の森を知る」
20:30 森人大交流会

=====
4日目 11月9日(火) 次につなげるもの ~自分と対話する
=====

07:00 起床・広間の掃除
07:30 目覚めの体操
08:00 朝食
09:00 スライドショー「4日間の活動をふり返って」
09:30 実技「ソロ ~たった一人でふり返り」
11:00 TV会議によるKEEPコースとの交流
12:00 昼食
13:00 全体のふり返り
14:00 閉講式
14:30 プログラム終了

1日目 出会い、再開 ～環を広げる

■ 初顔合わせ

全国各地から長い時間を掛けて電車やバスで移動して来る参加者たち。この移動時間もうまく活用できたらと思い、今回は初の試みとしてメーリングリストを活用してプログラム参加前から自己紹介を行なうなど、相互の交流を図ってみました。その成果として、同じ方面からの学生どうして席を隣り合わせて会話を楽しみながら移動するなど、講座開始前から交流を深めることができました。

■ 開校式



森林たくみ塾理事長・佃よりあいさつ。

「この講座を通して、”知っている”ことを”している”ことに変えて下さい。体験を通して、”腑に落ちる”まで理解して下さい。」

■ 実技『森づくり・導入編』 KYTで危険予知～まずは伐って見よう



森づくりは急斜面で足場が悪いだけでなく、障害物もたくさんある中で、刃物を使って作業をする。危険はあちこちに潜んでいます。どんな危険が想定されるかを考える訓練をしたあとで、森の手入れを始めました。

森の手入れについて何も説明をせず、「既に手入れをしている隣の場所をよく観察して、同じように手入れしてください。」とだけ指示をしました。作業指示のないことに躊躇しながらも、木を切り始める人・ササを刈る人、それぞれに覚悟を決めて手入れを始めました。

■ グループ討議『なぜ森の手入れが必要か』



何も教えないのが、たくみ流。自分で体験して感じたことをベースにして、考え・行動することが一番大切です。

どの木を切るのか、どうやって切るのか、そもそもどうして切る必要があるのか？ササは切る必要があるのか？森の手入れの体験を通して感じたことや疑問に思ったこと、もっと知りたくなったことを一人ひとり紙に書き出したあとで、みんなの意見を一枚の紙にまとめました。

同じ森での体験なのに、自分とは違う視点や違う感想が出てくることも、学生たちには新鮮なことのようでした。

■ 小講義『手を掛けて森を育てる』



森についてもっと知りたいという器ができたあとで、森についての基本的な知識を注ぎます。

時代をさかのぼり、世界に目を広げ、宗教の視点も交えて、人間の暮らしと森が密接に関わってきたことを学びました。

■ 森人大交流会



お酒を飲んでにぎやかに話しあうだけが森人の交流会ではありません。毎晩遅くまで続く交流会も、この講座の大きな要素なのです。

環境の話題以外にも、恋愛の話や進路・就職の悩みなど、普段友達とは深く話すことができないテーマについても、みんなで徹底的に話し合います。時には早朝までになることもあります。それ故にお互いを深く理解することになり、本当の友達に出会えることになるでしょう。

2日目 森と私のつながり

■ 小講義「ミクロの視点・マクロの視点」



目の前の手入れをする森を見るのではなく、鳥になったつもりで上空から俯瞰して、全体から森を見ることの大切さを学びました。

何も分からずに行った昨日の森の手入れで分かったことの一つは、計画を立てて森を手入れすることの必要性です。2グループに分かれて、どこをどんなふうに手入れをするのか計画を立て、作業に入ります。

■ 実技『森づくり・実践編』



指示のないままに始めた昨日の森づくりでひとつ解ったことは、何をするか考えるのは自分たち自身だということ。2グループに分かれて計画を練り、作業に入ります。



森づくりの成果が実感できるということも大切です。手入れ前と手入れ後の森の様子を定点撮影してみました。

随分と奥まで手入れが進んでいったのが分かるでしょうか。



翌日の「森のモノづくり」で作る「ハシ」の材料を調達するために、ヒノキ林へと場所を移動しました。どの木を残して成長させるか、どの木を伐り倒して材料として使うか、周りの状況をよく見て判断します。随分と高さのある木なので、倒す方向にロープで引っ張りながら、伐り倒します。



■ TV 会議による KEEP コースとの交流



s k y p e を用いて、KEEP コースの参加者と交流の場を持ちました。この講座での出会いを、次の行動につなげてくれることを期待しています。

■ 特別講座『NECの環境活動』

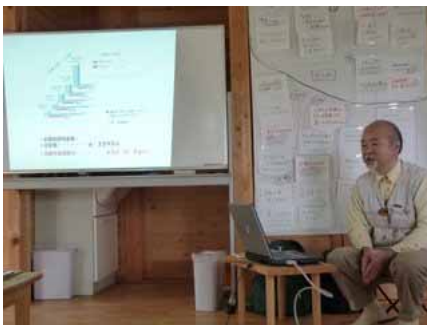


NEC 環境推進部より社員の方にお越しいただき、NEC が取り組んでいる環境活動についておはなしを頂きました。

学生たちが抱えている(企業 = 利益優先、社会貢献 = 広報活動)という先入観も払拭するほどに、企業が本気で環境問題に取り組んでいる真剣さが伝わったのではないのでしょうか。この後引き続き行ったトークセッションが、企業の方と本音で話し合える場になった点も、学生たちには有意義な時間が持てたと思います。

3 日目 森と暮らしのつながり

■ 小講義「森人流、事を起こす・環を広げる」



経験を重視するこの講座を通して得たものは、行動に移したときに初めて生きてきます。行動を起こす上で押さえるべきことや、少人数のプロと大勢のアマチュアの力を結集させることなど、これからの森人としての活動に必要なエッセンスを伝える場です。

■ 実技「森のモノづくり」



森の手入れは、木を伐ることだけでは終わりません。伐った木を暮らしの中で使うサイクルをすることで、森に人の手とお金が行き回ります。

昨日自分たちで伐り出したヒノキの丸太を材料に、刃物を使ってマイ箸を作りました。丸太を必要な長さに切ります。ナタで割って、板を作ります。板を更に割って、箸の材料となる角材を作ります。あとは使いやすい太さになるまで、ひたすらカンナで削ります。

■ 見学『オークヴィレッジ』



「100年育った木で100年使える家具を」をスローガンに掲げる家具工房・オークヴィレッジのショールームを見学しました。

実際の商品を目にして、プロのモノづくりの技や木目を見る目、適材適所に木を利用する知恵などを理解しました。自分たちが体験したモノづくりとは大きく違うが、森の木を伐り、木でモノを作り、木のモノを使うことが、循環型社会へつながることが理解できただろうか。

■ 20期生送り出し



今回は一人きりの20期生でしたが、前回の講座にキープコースで学んだこともしっかりと伝えてくれました。今回、オークヴィレッジコースで違うアプローチから森に関わったことで、森を見る視野が広がったことと思います。

■ 小講義「森と人との付き合い方」



先人の暮らしぶりのなかには、森と共に生き、その恵みを利用してきた「知恵」がたくさん詰まっています。日本人が森とどう付き合ってきたのかを見てゆく中で、自然との共生を考えました。

■ 森人大交流会



みんなで過ごす最後の夜です。午後から参加していただいたJEEFの担当の方も交え、大交流会が始まりました。

この講座に応募したときに書いた課題作文を持ってきたという参加者が、みんなの前で課題作文を読んで披露するというサプライズもありました。続いてひとりひとりに課題作文の内容も話してもらい、改めて初心に立ち返ると同時に、みんなで問題意識も共有しあうことができました。

4日目 次につなげるもの

■ スライドショー『4日間をふり返って』

駆け足で過ぎ去った昨日までの3日間を、画像と解説でふり返りました。

■ 実技『ソロ～たった一人でふり返り』



この講座の締めくくりは、4日間をたった一人でふり返ることです。次の行動へのステップへ進むために、この講座で得たものをじっくりと再確認する時間となります。

森との関わりを通して考えさせられたことや、かけがえのない仲間との出会いで得たもの…。駆け足でめぐった4日間を、自分との対話を大切にしながらじっくりとふり返ることで、自分自身のこれからの課題や目標を見つけていきます。

■ TV 会議による KEEP コースとの交流

この4日間で得たものを一言ずつ、キープコースの参加者に伝えました。別々の場所で過ごしてきた4日間だが、同じ目標に向かっていくことを噛みしめているようでした。

■ 全体のふり返り

話し方や伝え方はうまくないけど、拙い言葉の中にも経験を通じた言葉の重さがたくさん詰まっています。帰りのバスの時間ギリギリになるほど予定の時間を大幅に過ぎてしまいましたが、素直な気持ちや、仲間への感謝の気持ちが共有できたことで、同じ問題意識を持つ仲間どうしの絆が更に深まったようです。

■ 閉校式



「この講座の期間中に、“している”ことが、“している”ことになった人は？」の言葉に、みんなが手を挙げました。森人として、行動する人として、みなさんの活躍を期待しています。



第 21 期: Aコース参加者の感想

文章の一部を抜粋、加筆をしています。

■「この講座を通して獲得したものは、何ですか？」

日本大学 (Y・H)

本講座に参加して印象に残ったことが3つある。

一つ目は、木が食べ物に見えたことからの発見である。森林から運び出した材を箸にする工程は、まるで牛を解体しているようだった。ノコを挽いて殺し、本体を細かく切断して木は箸になった。木を箸にしたことと牛を精肉にすることは、「命をいただくこと」の点で同じだったことに気づいた。

二つ目は、自分が他人に影響を与える人間になりたいと思っていることに気づいたことである。ただのお節介かかもしれないが、悩みのある他の参加者にアドバイスをとてもしたくなった。自己満足と感じつつも自分の新たな一面を認識でき、腑に落ちた気持ちになった。

三つ目は、本講座に参加した目的についてである。私は日本の森林の今後に危機感を持っている。その課題を解決する糸口が見つきたくて参加した。今、講座が終了して思うことは単純で、「木のある生活がしたい」ということである。これから自分に何ができるか考えたとき、「木を使えばいいではないか」とシンプルなことに気づいた。百姓のように身の回りのものは自分自身で作れる人生にしたい。

東海大学 (O・S)

この講座を通して私が手に入れたもの。何よりもまず「森がすきだ!!」と思いました。それはフィールドに出て木や草を刈ったり伐ったりするときも、自分たちが倒した木でモノづくりをするときも、歩きながら遠くの山を見るときも同じでした。森が好き。その気持ちを再確認できたこと、またその素晴らしさを再認識できたこと、更にその気持ちが一層強くなったことが、私がこの講座を通して得た一番大きなものだと思います。

そして、実際に森を歩くこと、自分の手を動かして感じることの大切さ。私は今まで自然や環境について勉強していく中で、フィールドワークがなにより重要だと考えるようになりました。でもこの半年間ほど、果たして本当にそうなのだろうか？と暗中模索してしまうことが何度もありました。しかし、この講座に今回参加させていただいて、やっぱりそれは間違いじゃないと思えました。

私たちは森のお陰で生きている。4日間を通して、本当にこのことを強く感じました。あとは、仲間がいることの大切さと心強さ！一人の力は小さいかもしれないけれど、森と自然(と生き物)を愛する者どうしが入れば、きっと森を守っていける。そんな希望を持つことができました。自然や生きものたちと同じように、ひとつひとつのつながりをこれからも大事にしていきたいです。森人がいる限り、きっと森の未来は明るい!!

越谷保育専門学校 (W・N)

まず、体験するということが、知ることの何倍も大きな事だということが腑に落ちました。まさに”している”体験を通して人は本当に学ぶということを教わったのです。森に入り、笹を刈り、本数を調整していくことで、たしかに森に光が生れ輝く様を目の当たりにしたことで、森にも生死があることを実感し、同じ命あるものとしての共感を覚えました。ですから、ただ森があればいいという漠然さから解放されて、森の生死を考えたいという想いを持てたことが私の中の変化というべきものなのでしょう。

森に生かされてある人は、感謝しつつ積極的に森を活かす使命があって、これにはすべての人が無関係でいてはられないと感じた今、私は森をもっとする必要があるし、伝えていかなければならないと思っています。

それを幼児教育という私の専門領域の中で伝えていくことが、私が森に対してできることだと改めて実感を持って確信したことが、今回の講座の収穫です。どうやって子どもたちと彼らを取り巻く人々に、森に生かされてある事実を伝えていくかが、今後の何よりの課題ですが、「体験」の大切さを実感した今、まずは森に彼らをつれていくことが私の一番の仕事であると気づきました。そして伝えるべきは遊び方や技術というよりも、森は日常的なものだという意識を養うこと、それが大前提となってエコロジ

一の意識は如何様にも育つと思います。責任は大きいですが、確かな森の重要性に気づいた今、偉大なる森の伝道者目指して歩みます。

日本大学（H・K）

講座を通して私が獲得したもの。それは“つながり”である。“森と人のつながり”、“人と人のつながり”これらのつながりを強く感じた。

みんなで考えながら行った森の手入れ。樹を切り倒し作った手作りの箸。森との距離がグッと縮まった。森から帰ると木の家が迎えてくれる。木の椅子や木の床、木の柱…。そして、木の食器でご飯を食べる。森と人のつながりを強く感じた瞬間だった。ともに体験し学び、考え、語り合った仲間。短い期間だったけれど本当に楽しかった。出身や学んでいることは異なってもつながりあえた仲間に関心から感謝したい。本当にありがとう。今回得られたふたつの“つながり”は一生涯大切にしていきたい。

佛教大学（N・H）

今回の講座に参加したことは自分にとって本当に大きな財産となった。この講座での出会いはその人の考え方・人生観・モノの見方など足を止めては知ることは無かったことばかりであった。そして何よりもこうして出会えた人とのつながりは本当に大切なものとなっていたということが帰ってきてからしみじみと感じさせられた。

また、森からは私たちが生活していく中でどれほどのありがたさがあるのかを身にしみて感じる事が出来た。箸一膳作るというその一連の流れを学ぶことで、木の大切さや箸をつくる労力・時間など今まで知ることが出来なかった部分を体験し、モノの大切さを改めて考えさせられるきっかけとなった。そのような流れを学ぶことで、私たちの生活のあらゆるものを与えてくれる森を、人が守っていく責務があることに納得することが出来た。そして、ここで学んだことを自分から多くの人に伝えていきたいという気持ちが芽生えた。

この講座に参加できたことで自分は成長できたと感じている。これより多くの経験を積みさらなる成長につなげていきたいと思う。

北九州市立大学（N・T）

この講座を通して自分が獲得したもの、それは、「森や自然、周囲の人々に感謝する気持ち」です。

森の手入れを通し、人が生きる上での森の重要性を強く実感し、木を切るところから始まった箸作りで、モノづくりの大変さ、奥ゆかしさを感じることができました。また、参加者との交流を通じて、等身大の自分で向き合うことのできる仲間がいることでの安心感を得ることができました。今回、森と出会い、仲間と出会ったことで、ありのままの自分を受け入れてくれる場があるということ、また、森や周囲の人間がいるからこそ、自分は生きていけているのだということ強く実感することができました。当たり前のように、現実に生きていると、なかなか感じることでできなかった感情だと思います。これからは、この感情をしっかりと相手に伝え、森や自然と共存できるように、私のできることを精一杯していきたいと考えています。

神戸大学（M・K）

今回の講座で獲得した大きなものは二つありました。

一つは、人とのつながりです。人と人とはつながっていて、互いに学び合うことの重要さも改めて知ることが出来ました。もう一つは、改めて自分は環境に興味があることを知りました。国土の67%を占める森林の現状を知り、改善点を知りたくてこの講座に参加しました。この講座で、日本の森林が全く活用されていない現実が理解できました。このことより、日本の林業への不安が現実的になり、より森林のことを勉強したい気持ちが大きくなり、森林や林業への興味を獲得できたと思います。

環境学園専門学校（S・N）

この講座を通して、森の重要さ偉大さを、身を持って痛感したことが一番大きなものだった。普段は森と離れた場所で生活しているが、その中でも森の恩恵を感じて暮らしていきたい。身の回りにある木

工製品の見方を変えて感謝して使っていきたい。「知っている」を「している」に。とにかく体験できて、いろんなコトを感じることができ本当によかった。うまく文章で表せないのが歯がゆいので、今後より多くの学生にも参加して感じてもらいたい。

NEC森の人づくり講座 2010・秋(2010/11/06～09)
Bコース(キープ・フォレストーズ・スクール)

講座のねらい

環境問題解決の第一歩は、コミュニケーションから。
自然と人、人と人をつなぐ「インタープリテーション」の考え方や手法を学びながら、
自分のコミュニケーションを見直し、“今、自分ができること”を考えます。

環境教育について学ぶ(企業やNPOにおける環境教育の取り組みについて知る)
インタープリテーションの考え方や手法について学ぶ
自分自身と環境教育との関わりについて考える(自分なりの言葉で説明できるようになる)
全国の仲間とのネットワークを作る
自分自身のねらいを達成する

そのために大切にしたいこと

体験から学ぶこと
お互いから学ぶこと
楽しみながら学ぶこと

4日間のテーマ

- 1日目: 出会う (人との出会い、自然との出会い、自分との出会い)
- 2日目: つなぐ (人と自然とをつなぐ、人と人とをつなぐ)
- 3日目: 気づく (体験から気づく、お互いから気づく)
- 4日目: ふりかえる (体験をふりかえる、日常につなぐ)

スケジュール

1日目 / 11月6日(土) テーマ: 出会う

- 14:30 開講式
- 15:00 講座のウォーミングアップ / アイスブレイキング
- 16:15 休憩、チェックイン
- 16:45 自己紹介と目的の共有化
 - 1) スライド「キープ協会の環境教育事業」
 - 2) 自己紹介シート作り
 - 3) 講座のねらいとスケジュール説明
- 18:00 夕食
- 19:20 講義: 環境教育概論
- 20:15 1日を整理する時間
- 20:30 終了
- 20:45 オプション: ナイトハイク

2日目 / 11月7日(日) テーマ:つなぐ

- 08:00 朝食
- 09:00 実習:環境教育プログラムの体験
- 12:10 昼食
- 13:15 実習:コミュニケーションを考える
- 14:30 講義:インタープリテーション概論
- 15:00 実習:環境教育プログラムの実施&相互評価/オリエンテーション
- 15:15 実習:環境教育プログラムの実施&相互評価/準備
- 17:30 Aコースとのインターネット交流 準備
- 18:00 夕食
- 19:15 Aコースとのインターネット交流
- 19:45 1日を整理する時間
- 20:00 終了
- 20:30 オプション:キャンプファイヤー

3日目 / 11月8日(月) テーマ:気づく

- 07:00 実習:環境教育プログラムの実施&相互評価/準備
- 08:00 朝食、20期生チェックアウト
- 09:15 実習:環境教育プログラムの実施&相互評価/実施と相互評価
- 12:00 実習:環境教育プログラムの実施&相互評価/ふりかえり
- 12:40 講義:インタープリテーション概論
- 12:50 昼食
- 13:25 20期生クロージング
- 13:45 20期生お見送り

- ~以降、21期生のみ~
- 16:00 後半のオリエンテーション
- 16:15 講義:安全管理
- 17:15 休憩
- 17:20 NECの社会貢献活動への取り組み(NEC CSR推進部・社会貢献室 山辺清和さん)
- 18:10 夕食
- 19:30 環境教育プログラムの体験 ナイトハイク
- 20:30 1日を整理する時間
自由交流会

4日目 / 11月9日(火) テーマ:ふりかえる

- 08:00 朝食、チェックアウト
- 09:15 補いの講義、質疑応答
- 10:15 Aコースとのインターネット交流 準備
- 11:00 Aコースとのインターネット交流
- 12:00 昼食
- 12:45 講座のふりかえり
- 13:45 21期生クロージング
- 14:15 終了、解散



1日目：出会う



開講式

前回Aコースに参加した20期生5名と、今回Bコースに応募した21期生10名の計15名が、会場となるキープ自然学校に集まった。赤や黄に色づいた森に囲まれた、ここ清里で、いよいよ4日間の講座の幕が開く。



講座のウォーミングアップ（アイスブレイキング）

開講式の後、まずは野外に出て、会場周辺を散策する。森を抜けて、パッと広がる広大な草原と青空、そして八ヶ岳。外を歩くだけでも、自然とお互いに打ち解けあっていく。



自己紹介と目的の共有化

室内に戻り、自己紹介シートを作成。講座に来た動機や理由はそれぞれ異なるが、環境教育を学びたいという意欲は皆同じ。お互いのことを知ると同時に、自分なりの講座の目的を考える時間にもなった。



講義：環境教育概論

最初の講義では、まず環境教育についての考え方を整理する。「環境教育とは何のためにあるのか?」「環境問題はなぜ起こるのか?」「自分なりの言葉で環境教育を説明するには?」投げかけられた講師からの問いを、この4日間で考えていく。

2日目：つなく



環境教育プログラムの体験

キープ協会スタッフによる環境教育プログラムを体験。じっくりと自然を見ることで、自分の感性が研ぎ澄まされていくのが分かる。

プログラムの最後には「森の映画館」と題して、一人ひとり森の中に寝転がって、静かに流れる森の時間を味わう。「知る」こと以上に、「感じる」ことの大事さを考えた。



実習：コミュニケーションを考える

話し手が一方的に話す場合と、話し手と聞き手とでやり取りできる場合で、意思疎通にどのような違いがあるか、実習を通じて考えた。一方向のコミュニケーションでは不十分であることが、実感として知ることができた。



講義：インタープリテーション概論

この講義では、先のワークから、より良いコミュニケーションとは何かを考えた。そして改めて、インタープリテーションの意味や考え方を整理。いよいよこれから、学生一人ひとりが、自然と人をつなぐ役割・インタープリターとして、環境教育プログラムを作り上げる。



実習：環境教育プログラムの実施&相互評価 準備

自らが環境教育プログラムを作成・実施することで、インタープリテーションについての理解を深めていく。すでに事例として紹介されているプログラムを実演するのではなく、一からプログラムを組み立てるのが、今回の大きな課題。野外と室内を行き来しながら、グループでの話し合いが続く。



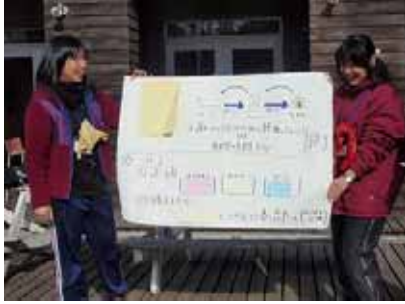
Aコースとのインターネット交流

講座中の大きなイベントの一つ。Aコース（オークヴィレッジ/森林たくみ塾）とのスカイプを使った通信。20期生は、森林たくみ塾のスタッフとカメラ越しに久しぶりの対面。別々の場所にいながら、同じ時間を共有している仲間との出会いは、お互いに刺激をもらうことができたはず。

3日目：気づく

実習：環境教育プログラムの実施&相互評価

いよいよ昨晚遅くまで準備したプログラムをお互いに発表する時間。自らがインタープリターの立場になって、参加者の様子や反応を肌で感じ取っていく。どのグループも内容に工夫を凝らし、お互いに楽しみながら発表しあった。まずはインタープリター自身が楽しむという、当たり前ながら大事なことに、改めて気づいた。



講義：インタープリテーション概論

自らがプログラムを実施した後、改めてインタープリテーションとコミュニケーションについて整理する。インタープリターは、今そこで起きている参加者のプロセスを見つめることが必要だと学んだ。

20期生クロージング

21期生より一足先に、20期生は講座最後の時間を迎えた。21期生に向けて、一人ひとりからメッセージを送る。そこには、この場で仲間と出会えた喜びと感謝が込められていた。



講義：安全対策

自然体験では欠かすことができない、安全についての講義。自然に潜む様々な危険因子について考えながら、危険には「目に見える危険」と「目に見えない危険」があり、「目に見えない危険」への対策は難しいものであることを知る。自然体験には危険がつきまとう反面、自然の中で行われる環境教育が、安全教育の側面も併せ持つことも学んだ。



講義：NECの社会貢献活動への取り組み

NEC CSR推進部・社会貢献室の山辺清和さんから、企業における社会貢献の取り組みについてお話いただく。企業の方と直接交流ができる貴重な機会とあって、講義後の夕食の席でも、山辺さんへの質問は続いた。

環境教育プログラムの体験 : ナイトハイク

わずかなライトの光を頼りに、夜の森を歩く。満天の星空を眺めながら、草原に寝転がると、ふと、これまでの、そしてこれからの自分について考えている自分に気づく。

4日目:ふりかえる



補いの講義&質疑応答

これまで講義や実習を通して学んできたことを整理する時間。大事なことは、学んだことをどう自らの行動に結びつけるか。講師からは最後に、「楽しむことが一番の原動力。楽しいことは続けられる。」というメッセージが送られた。

Aコースとのインターネット交流

2回目のスカイプでの通信。お互いに最終日を迎え、それぞれが学んだことを発表しあった。今ここにいる10人だけではなく、画面の向こうの10人とも一緒にやってきた4日間と感じた時間だった。



21期生クロージング

4日間を通して、天候にも恵まれた今回の講座。最後の最後で、この時を待っていたかのように、窓の外には雪が。自然が与えてくれる感動を改めて胸に、全員が笑顔で清里を後にした。

第 21 期: B コース参加者の感想

愛媛大学 (A ・ S)

私は、自然が大好きだということを清里に来て改めて感じました。率直に好きだからというだけでなく、色々と考えたうえで、やっぱり好きだということになったので納得しています。

また、自然の中にいる時、そこで何かをすることで一番自分がありのままにいられるということが分かりました。自然はそのままを受け入れてくれるので、そこで出会った仲間と無理に自分を飾ったりせずにありのままにいられることができました。ここで出会った仲間とのつながりはこれからも続けていきたいです。このような場所で仕事が出来たら、私は最大限に活躍できる気がします。私が目指す道をしっかりと示してくれた今回の講座にとっても感謝しています。

これからは自分が直接指導者または、解説者になり、自然の良さ、大切さを教えていきたいです。パークレンジャーもそうであるし、インタープリターやビジターセンターの職員などとして様々な人、自然と関わっていきたいです。それが巡り巡って環境問題の解決につながるのではないかと思います。

また、もっと多くの人を巻き込むことが大切なのだと思います。そのためには様々な人々の声を聞くことが重要だとわかりました。環境問題に対して関心のない人の声、考えを理解しあえることが本当のコミュニケーションであり、そしてそこから新たな解決策が導かれるのではないかと思います。

レンジャーになるためにアンテナを張って、自分が出来る行動はやれる限りやりたいです。案外、ヒントやきっかけは日常の様々なところにあると思うので、日々気を抜かないで行動したいと思います。

まだまだ、私自身のスキルや能力は至りませんが、努力次第でどうにでもなると思います。自分に厳しく自分のスキルや能力を高めつつ、他者と触れ合って自分の価値観を磨いていきたいです。

明治大学大学院 (F ・ S)

今回、NEC 森の人づくり講座を受けた 3 日間は、とても中身の濃いものでした。この講座で受けて、自分にとっての環境教育を少し確立することができました。私がこの講座で知ったように、自分の生活や仕事と環境教育のつながりについて考える人が増えることを願っています。

実際に受けたプログラムは純粋に楽しみながら、インタープリテーションについて学び、一言に「森」と言っても切り取り次第で本当にたくさんのプログラムができることを再認識しました。

自分達でアクティビティを作る際には、参加者のことを考えたものを作る難しさを改めて感じました。計画段階で考えてもわからないこと、実施して初めてわかることがたくさんありました。しかし、グループのメンバーでアイデアがどんどん広がっていくのは、とてもおもしろかったです。実際のアクティビティは、改善点はあるものの成功したと思えました。他のグループのアクティビティも、よく考えてあることが感じられ、とても楽しかったです。

職員の方による講義は、今まで言葉にできなかったことをとてもわかりやすく説明していただき、本当に勉強になりました。自分の中で考えていたことを整理することもできたので、とても感謝しています。

この講座を受けて、自分が環境教育活動に関わるにも、インタープリターとして実際にプログラムを進行する、資金の援助やネットワーク作りなどを行うなど、本当に様々な場面で関わることができるということを感じました。また、講義では、環境問題の解決方法に対しても対象療法的な方法、根本治療的な方法など色々なアプローチの仕方があることを知りました。この中から自分がやりたいことを絞ることは、やりたいことがありすぎて今の時点ではまだできませんが、この中のどこかで活動をして環境教育活動に関わっていききたいと思います。

最後に、この講座を通して出会った人みんなには言葉で言い表せないくらい感謝しています。特に一緒に講座を受けた 20 期生、21 期生とスタッフには、とてもお世話になりました。この出会いを大切に、仲間には負けないように、今後も自分の道を進んでいきたいと思っています。本当にありがとうございました。

私は、この森の人づくり講座を通して、自然対人や人対人を企業という立場からつなぐ役割を果たしたいと考えています。

この講座に参加する前は、ただ漠然と環境問題に興味を抱いており、何か行動したいとの思いで参加したのが動機でした。でも、初めに参加させて頂いたAコース；オークヴィレッジ講座の中で木を間伐し、その切った木を活用するというサイクルをやっていく中で、最近よく取り上げられる企業の植林という活動は、本当は木を植えただけで終わるものではなく、植林 木が成長 間伐 利用 植林・・・のように「森の手入れ」をすることで動植物が栄えたり、水保能力が高くなったりと人が手をかけて森を育てることが実は自分たちのためになっており、また、自分たちで木を間伐し、その木を用いてマイ箸を製作する中で自分たちの生活は森林がもたらす様々な恩恵によって支えられているのだと肌で感じる事が出来ました。

Aコースの講座を終えて、私たちには後世にこの恩恵を引き継ぐ義務があり、持続可能な社会を実現するような新たな仕組みを作る必要があると思いました。

さらに、Bコース：キープ講座に参加させて頂く中で、私自身が漠然と考えていた環境問題というのは地球温暖化、砂漠化、森林伐採、外来種異常繁殖、異常気象、オゾン層の破壊など多種多様な問題が地域レベルから地球レベルで起きているのだと改めて認識しました。

だから、これから求めていく理想像としては今の社会を環境問題のない社会、つまり、「持続可能な社会」にするために、インタープリテーション(体験・行為を通して、そこに込められている意味や価値を伝えること)という考え方を大切に、様々な環境問題を解決するためのアプローチもいろいろあることから、自分が置かれている位置(地球では?地域では?又企業or行政orNPOなのか?)や状況をまず知り、今自分に出来ることを考え、行動することが求められていると思います。

このBコース：キープ講座で印象に残っていることは、4人1グループで行なったインタープリテーション実習で自分たちがインタープリターとして、アクティビティを組み立て、実施した事です。同じグループ内でも、個々がインタープリターとして伝えたい事があり、初めはなかなかグループとしての意見をまとめることができなかつた。一度は出来たプログラムを白紙にし、悩み続けた中で出た新たな意見をより肉付けしたアクティビティへと生まれ変らせ、実習では一番伝えたかったことを表現できたのではないかと思います。このインタープリテーション実習を通して、同じテーマについて、悩み、考え、議論するといった何気ない時間の共有がコミュニケーションの本質であり、話し手は伝わるために相手の視点を考えて話し、聞き手は受け入れ、お互いの話のペースが合うことがより良いコミュニケーションだと思いました。

最後に NEC 協賛で行われた「森の人づくり講座」のような環境教育というのは、自然対人や人対人の崩れたバランスをもとの状態に戻そうとする根底治療の一環であり、目的があつてこそ意味をなすものだと思います。このような環境教育は、一人で出来るものではなく、NPO や企業、行政、学生、ボランティアなどが相互に関わり合うことで成り立つものだと思うので、環境教育に対して“共創”を促す役割を企業人という立場から担っていきたいと考えています。

今回の秋講座への参加を通して、楽しみながら参加することの大切さを学びました。3日間の日程の中で、森の中にいる時、楽しむ自分と安らいでいる自分とがいました。最終日のプログラムの考案や、参加・実施時は気分が高揚し、楽しくて仕方なかつたです。

今後の活動においては、まず自分が楽しむということから始めたいと思います。リーダーまたは、メンバーの一員として活動する時、発し手が楽しみながら伝えることができなければ、受け手に対して伝えられる物が何も伝わらずに終わってしまいます。活発的な活動にするためにも発し手が楽しむことが大事だと思いました。

私は、楽しみながら行動すると自然と顔がほころぶ気がします。

私は、楽しいと感じている時見えないこと・気付かなかつたことが、見える・気付けるような感覚があります。見えないものや、今まで気付かなかつたことを沢山発見したいです。

今後の目標としては、来年内に東南アジアでマングローブ植林を行っている団体の活動にボランティアとして参加するという事です。日程については未定ですが、自分の中では決意が固まっています。

このように、日本や普段の生活から少し離れた活動への参加を通し体験する、一方で日常生活に沿った活動を行っている団体に参加する、の2つに今後関わってゆこうと思います。

充実した時間を過ごすことが何よりも大事と考え、様々な面から物事自然環境を考えたいです。そのため社会人として社員の1人として、企業として環境に携わる部署に配属されるようなことがあれば嬉しいです。そして、企業の中の1人として環境に対して動くだけでなく、休日などを活用し社外の団体の活動に積極的に参加し、関わっていきたいです。

その時々で変わりますが、自分自身の取り組むべきことがあると思います。しかし、やりたいことや挑戦したいことに対して、「行動しない事が由来の後悔」はしたくありません。そのため、興味を持ったことに飛び付いて取り組んでいこうと思います。

上記を実行に移すことはもちろん、今後の人生の様々な事柄に楽しむや学ぶなど目的・目標をもって実行し、自分を常に新しく保ちたいです。

早稲田大学 (E・N)

この講座を通して気づいた一番大きなことは、“自然が好き、そして、人が大好き”ということでした。だからこそ、自分の関わる子供達にも自然を感じてもらいたいし、環境に興味を持つきっかけをつくりたい。

私がこの講座に参加したきっかけは、夏にキープ協会の方の関わるツアーに参加したことでした。実際にプログラムを体験する中で、私も自分の関わる子供達にこんなことができれば、と思いました。しかし同時に、一般的にいわれる“環境問題”に対して特に行動していない自分が、環境教育なんてしていいのか、という気持ちもありました。

でも、今回の講座を通じて、それでもいいのかもしれない、と思いました。

私は、小さい頃からキャンプで川遊びをしたり、祖父と四季の渓谷をハイキングしたりしていました。それらの経験を通じて、森が好き、山が好き、自然が大好き、という気持ちができていったように思います。

今、私はスキーのインストラクターとして、主に子供達にスキーを教えています。

スキー場は自然を利用した人工物、スキーはスポーツです。

だから、せっかく都会から山のなかに来て、ただスキーのレッスンを受けているだけだと、自然に目を向ける余裕はありません。(これは私の経験なので、みんながそう感じているかはわかりませんが...) だからこそ、私がきっかけ作りをすることで、子供達に自然を感じてもらい、自然を好きになってもらいたい。

そして、彼らが大きくなったときに、自分なりに環境について考えるきっかけを作れたら、と思います。

質問をしたときに頂いた答えに、“種は植えてもすぐにはでてこない。いい条件になるまで何年も待つ”ということがありました。

私にも、小さいころからたくさんの種が植えられてきたと思います。それがこんな小さな芽を出すにもとても長い時間がかかりました。

だから、たしかに自分のしたことがすぐに結果としてはみえないかもしれないけれど、これからは私も種を植えていきたいと思います。

関根さん、まーさ、まちゃみ、ジャッキー、そして一緒に参加した20期、21期のみんな、本当にありがとうございました。

日本大学大学院 (G・M)

私が今回の講座で学んだことは、1 環境教育とは何か (必要性や目的、アプローチの仕方など)、2 環境教育の体験と実践、3 コミュニケーションの考え方。主にこの3つであったと思います。

まず環境教育とは何か。これは講座の参加者の多くが、わかるようで、いまいよくわからないという状態でした。それもそのはずで環境教育の意味するところは現在とても広い範囲に渡っており、地域のゴミ拾いから里山の保全活動、動植物の調査や自然学校の自然体験活動など、多くのアプローチの仕方があり、形が様々で、実態がつかみにくかったです。

講座ではこのことを理解するために参加者が皆で環境問題や環境教育にはどのようなものがあるか、意見を出し合って考えました。そして形は違えども、結局は自然とうまくやっていくために、持続的な社会を形作っていく、という共通の目標がある事を学びました。

次に環境教育の体験と実践。まずレンジャーのマーサさんがプログラムの見本を見せてくれました。清里の森に入って枝や葉など自然のものを使って自分を説明したり、その色と思い出を照らし合わせて紙に書いたりするものがありました。その中に森の中でしばらく寝転ぶというものがあり、歩いているときにはあまり聞こえてこなかった鳥の声や風の音に気づき、とても不思議に感じました。そして、このような体験をもとに参加者が班ごとに別れ、実際にプログラムを考えアクティビティを行うという作業を行いました。実際に作るとなると難しく、思ったよりたいへんでしたが、プログラムを作るうえでの流れを知ることができよい経験になりました。

3つ目はコミュニケーションの考え方。コミュニケーションは普段の生活でも環境教育を行う上でも特に重要な事柄ですが、ついつい見逃しがちなポイントが多くあるということを知りました。それは一方通行の言葉ではなかなか伝わらないことや、感じ方の違いなどです。このことを実感するため、参加者が同じ話を聞いて絵や図を書き、その違いを比べてみました。そうすることで言葉のキャッチボールの大切さと、同じことを言われてもイメージすることには個人差があることがよくわかりました。

これらの学習や体験を、私は主に今後のボランティア活動に生かしていきたいと考えています。環境教育への関わり方には上にも書いたとおり様々なものが考えられますが、最終的な目標は同じであって、どんな関わり方でもいいと私は考えています。ただできれば、大学で学んできた森林科学や動物学の知識を生かし、里山保全や地域の生物相調査などの活動に参加していきたい(現在参加しているものもありますが)と考えています。しかし、ただ森林を整備する、動物相や植物相を調査する、というのでは、給料もらわずに林業(重労働)をやっている、環境アセスのバイトをただでやらされている、というのと同じことになってしまいます。私はこういった理由で団体の活動に参加するのを辞めてしまったことがありました。

これらのことをもっと楽しんで行えるようなプログラムを盛り込んで、コミュニケーションを大切にしたい、誰もが続けたくくなるような活動にしていきたいと思えます。また目標をはっきりさせることも大切だと感じました、参加者一人一人が目的意識をもって活動に取り組まないと、きっと中身のない形だけのものになってしまうでしょう。本講座で学んだことを忘れず、常に目的意識を持って楽しいボランティア活動をしていけるよう工夫していきたいと思えます。

東洋英和女学院(T・N)

今回の講座に参加するにあたり、どうして私が環境教育に関わってきたかを考え、その答えを言葉にしようと思っていた。その答えも私なりに見つけられたのと同時に、これからどう関わっていくかも見えてきた。

これからも、今関わらせていただいているものも含め子どもキャンプには関わっていききたいと思う。その点は以前と変わらないが、関わりたいと思う動機や実際にどのように自分が関わるのかは明確になったように思う。この講座も含め環境教育に関わる中で私が学んできたことや得てきたもの、感じてきたものはたくさんある。私はそれによって人間的に豊かにされた面も多いと感じている。今の子どもたちにもそのような経験を積んでほしいと願っている。そして、子どもたちの経験を積むシーンに私も関わっていき、経験の手助けをしたり、共感者としての立場にいたいと考えている。そのために私自身が、今まで以上に自然の中にいることを楽しんでいきたいと思う。新たな自然の中でのアクティビティに挑戦したり、清里だけでなく様々なフィールドに足を運び体験してきたりと新鮮さを取り入れる必要があると感じている。そうすることで、今までと同じフィールドに帰った時も違った視点が加わり、気づいていなかった発見が多々あるのではないかと考える。発見や感動の感覚を私が忘れないことで、子どもたちがする発見も共に喜べるのではないかと感じる。

今回の講座では全国各地で様々な形で環境教育と関わっている同世代とのよき出会いがあった。その仲間から話を聞くことで、私自身がいかに目の前のフィールドしか見ておらず、他の環境について無知であるかを思い知った。これを機に、もっと広い視野からの環境を見ていきたいと思っている。仲間の活動に参加してみるなど、お互いに刺激し合いながら高め合っていきたいと思う。どのようなことに対しても、「無関心」にならないようにアンテナを張りつつ、常に新たな気持ちでフィールドに入ってい

けるような人を目指したい。

日本大学 (S・M)

3泊4日の清里でのNEC森の人づくり講座2010・秋。

今から考えると初日に緊張していた自分がバカらしく思えるくらい毎日が充実していて楽しかった。「できるならもう少しみんなと一緒に学んでいたい!!」私も...たぶん他のみんなもそう感じずにはいられないくらいの毎日だった。

4日間のことを全部書くと膨大な量の感想文になってしまうし、簡単に淡々と書いてしまっただけは感想文の意味がなくなってしまう。よって私は全てが大切だと思えた4日間の中から最も印象深かった2つのことを書きたいと思う。

1つは自然に触れ、自分で体験し、アクティビティを考え実行したことだ。

4日間の間、ほとんどが指導員による自然の中でのアクティビティだった。アクティビティを通してたくさん自然に触れた。慣れてきたら自分たちでアクティビティを考え、班のメンバーと実行した。結果、成功こそしたものの思った通りに行かず反省点だらけで終わってしまった。でも反省点がたくさん挙がったということは次回では反省点を生かし、成功させる可能性が上がったということだと私は思う。正直、指導員の方々が簡単そうにアクティビティをしていると思っていた自分が情けなく思った。それだけアクティビティでの出来事は私には大きなことだった。

もう1つは指導員ラビットこと関根さんの講義だ。

講義を受けての最初の感想は「本当に教え方が上手い」「話の構成が絶妙」だと思った。一通り講義で学び、大学の授業よりもたくさんの事が得られたと感じた。

ラビット「インタープリターは知識だけでなく、身を持って体験することが必要」

本当のそうだと思う。この4日間で私が指導員の方々から学んだ大切な事、そして学びの中で自然に触れ体験した事...自分が体験して初めて他の人に伝えることができることを知った。

4日間の中で専属カメラマンとして写真を撮り続けた。自らアクティビティを通して体験し、学んだ。私は今回体験したことを写真を通して塾の子供たちに話しました。予想以上に塾のみんなが興味を持ってくれたことに驚きました。今の自分にはまだ限界があるかもしれないけど...大好きな写真と自分が体験した事をたくさんの子供に伝えていきたい、そして自分自身も仲良くなった20・21期生のみんなともっと色々体験し成長して生きたいと思います。

鳥取大学 (S・Y)

参加する前までは、インタープリターという職業がどのようなものかを分かっていませんでした。しかし、実際にインタープリターとして活動されているスタッフのみなさんと関わることで、少し分かったような気がしました。私が思う環境教育とは、自然の中で参加者に、「参加者だけが見える、聞こえるもの」を発見するお手伝いだと思います。講座の中で、インタープリターは“見えるものを通して、見えないものを伝えること”だと教わりました。見えないものがコミュニケーションを通して伝えることが出来たら、どれだけ感動するのでしょうか。私は、自然の中に転がっているたくさんの宝物を伝えられるような環境教育者になりたいと考えています。ただ、今回同じ志を持つ仲間と出会い、たくさんの時間を共有しお互いの考えを伝え合い、環境教育というものが私の考えていた範囲よりも本当に広い事を知りました。仲間の中には、学校の先生になる人もいたり、レンジャーになりたい人もいたり、一見環境教育とは違うような職業に就く人もいたり...。一つに環境教育といっても、そのフィールドは様々であり、職業としてもたくさんの種類があるのだと知りました。なので、これからの大学生活の中で、本当に私が生涯やりたいと思えるような職業をこれから探していきたいと思っています。

今回の講座を終えて、私なりに活動報告をまとめ、所属しているサークルでプレゼンテーションを行いました。実施してみても感想なのですが、今すぐ自身の活動に取り入れることが出来るものも多いと感じました。また、改めて確認出来たようなこともたくさんありました。今回参加して学んだことは、コミュニケーションの大切さです。いくら楽しいプログラムでも一人では楽しくない。いくら自然が豊かでも、仲間と一緒にじゃないと笑顔にならない。改めて強く感じました。この講座に参加して良かったと思っています。本当にありがとうございました。

私は今回の森の人づくり講座を通じて、扱う領域が広く、見えるものから見えないものを伝える環境教育を行うには、環境教育を実践する自分自身が人と人、人と自然との相互作用を意識して取り組むことが重要であることを強く感じました。今後は、この相互作用、コミュニケーションを意識して、自然体験以外でもあらゆる場面で環境教育活動に取り組んでいきたいと考えています。なかでも、私はあと約1年で大学を卒業するのですが、卒業後は行政の立場から環境教育活動に携わっていきたくと考えています。そのうえで、地域の人々が身近な人や自然をはじめとした環境との相互作用に気付き、そのかわりやつながりの大切さを実感してもらえるように積極的に橋渡し役を務めていくことで地域の人々の暮らしを豊かにしていきたいと思っています。特に、私が幼いころから生活している東京の都市部では今回の講座の舞台となった清里とは異なり、自然のなかで自然を満喫するといったことがめったにできません。地域は人や情報にあふれてますます複雑化し、たとえ見えているものでも見えなくなってしまうように思います。そこで、少しでも多くの人に自分の生活する地域とのかかわりに気付く感受力を身につけてもらうために、私自身が積極的に地域の橋渡しを行っていきたくと考えています。

この橋渡しを実践するために、私は生活する地域を自分の足で隈なく歩き、より多くの人や自然とコミュニケーションをとっていかうと思います。自らが地域の人や自然とよく対話をはじめとしたコミュニケーションをとることで、地域でみえないもの、見えなくなっているものを自分の価値観でとらえ、解釈し、地域の人々にさまざまな方法で伝えていきたいです。今後よろしくお願ひします。

プログラム実施団体

A コース 森林たくみ塾 <http://www.takumijuku.com/>

〒506-0101 岐阜県高山市清見町牧ヶ洞 4444-3
TEL : 0577-68-2468 FAX:0577-68-2469

『100年育った木で100年使える家具を』を理念にモノづくりを行う工芸集団Oak Village。私たち森林たくみ塾は、Oak Villageのモノづくりの理念を受け継ぎ、1991年に木の総合教育機関として開塾。職人として必要なスキルを現場で身につける、現場での徹底した実践教育が特徴。木の名前も知らなければ、鉛筆も削ったこともないような全くの素人が、2年後には一人前の職人として社会に出ます。以来19年間で200名に達する職人を養成、社会に送り出してきました。

B コース キープ・フォレストアーツスクール <http://www.keep.or.jp/ja/>

〒407-0301 山梨県北杜市高根町清里 3545 (財)キープ協会
TEL : 0551-48-3795 FAX:0551-48-3228

キープ協会では、八ヶ岳山麓に250haに及び、森林、牧野、溪谷、山岳など多彩な自然環境が広がっています。そして、農場では高冷地の食糧生産としてジャージー牛を飼養しての酪農を実践しています。さらに、環境教育事業に関しては、日本でも先駆けともいえる25年もの歴史を誇ります。キープでは、こうした素晴らしいフィールドを活用して、四季を通じて、持続可能な社会を目指し、人と自然、人と人との関係の見直しと意識の変革を促す様々なプログラムを提供しています。子どもから大人まで、また個人から、学校、企業、子供会まで、さまざまな自然体験学習や遊び、研修、共同生活を体験することができます。

2010年度 NEC森の人づくり講座(第20期・第21期) 実施報告書

発行者	公益社団法人日本環境教育フォーラム 〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-10-15 ツインズ新宿ビル 4階 TEL. 03-3350-6770 FAX. 03-3350-7818
協賛	日本電気株式会社 コーポレートコミュニケーション部 CSR推進室 〒105-8001 東京都港区芝五丁目7-1 NEC本社ビル

発行 2010年12月

* 報告書の全部・一部にかかわらず、無断転載・無断使用はお断り致します。

C Japan Environmental Education Forum 2010